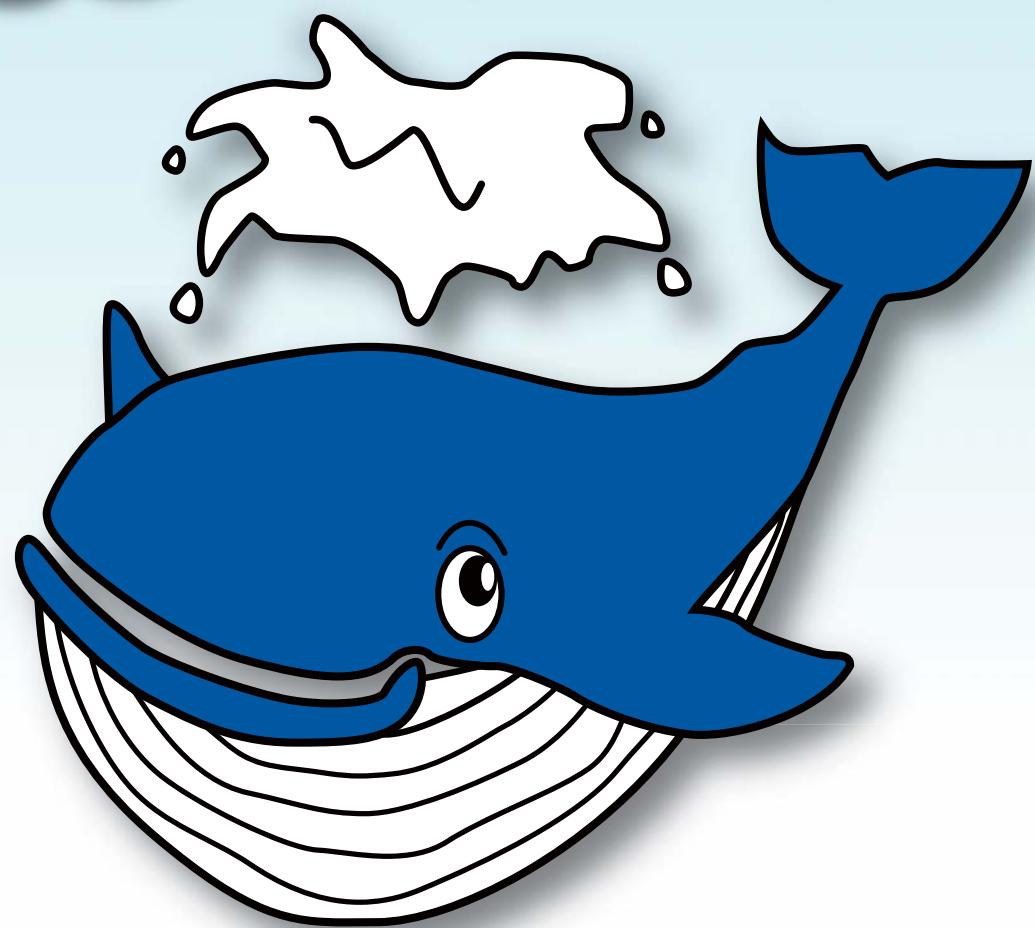


# 10周年記念誌



特定非営利活動法人 チャレンジド ステーション クジラ  
昭島市障害者就労支援センタークジラ



## あいさつ

平素は、格別のご高配を賜りまして深くお礼申しあげます。

さて、昭島市障害者就労支援センター クジラは平成 24 年 10 月 1 日をもちまして開設 10 周年を迎えることができました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と心より感謝しております。

障害のある方々が一般就労をめざし、安心して働き続けるには、雇用する側とされる側の架け橋となり、身近な地域で就労面と生活面をも含めた総合的な支援を提供すること。また、障害者を雇用している（しようとしている）企業への支援も行う就労支援機関が必要不可欠との観点から、東京都は国に先駆けて各区市町村に障害者就労支援センターを設置する「区市町村障害者就労支援事業」を重要施策としました。当時は社会化されていない発達障害者や障害者手帳のない方も支援の対象にするという画期的な施策でした。

平成 13 年には 2 区、3 市で実施されました。昭島市もこの事業の必要性にいち早く着眼され、翌年の平成 14 年に当法人へ事業委託をされ先駆的に取り組まれました。（この年には 6 区 2 市で実施）そして 10 年の年月を経て平成 24 年には都内全区市と 1 町で実施されるようになりました。

この 10 年を振り返りますと、利用登録者数も相談件数も年々増加の一途を辿っており、この事業の重要性が見て取れます。また、障害者を取り巻く社会情勢も大きく変わりました。平成 17 年に発達障害者支援法施行、平成 18 年には障害者自立支援法が施行され、就労支援が大きな柱として掲げられました。また、雇用促進法の改正が行われる等、障害のある方が働くための支援が一步前進しました。

障害者雇用は国の労働行政、この障害者就労支援事業は都の福祉行政とのこともあって、開所当時はハローワーク等の労働行政との連携がスムーズに行えないこともありました。今日ではそれぞれの機関の役割も明確になり、ネットワークの構築も実現され、より良い関係が築かれております。また、医療・福祉サービス機関等の地域の社会資源との連携も密になり、より質の高いサービスが提供できるようになりました。

当センターは障害のある方一人ひとりのニーズに応じた丁寧なオーダーメイドのサービスを提供させていただくことをコンセプトに事業を行ってまいりました。今後も利用者様、企業様の満足度アップに向けて、精進してまいります。

今後とも、これまで同様のお引き立てをたまわりますようお願い申しあげます。

末筆ではございますが、本誌にご寄稿くださいました利用者様、企業様、関係機関、関係者様に深く感謝申し上げます。

特定非営利活動法人  
チャレンジドステーション クジラ  
理事長 東條 芳男

# 昭島市障害者就労支援センター 10 周年記念誌

## 目 次

### あいさつ

I.	クジラのあゆみ .....	1
II.	昭島市障害者就労支援センタークジラ業務について .....	2
III.	10 年の昭島市障害者就労支援事業実績 .....	3
IV.	10 周年寄稿文	
①	利用者様・ご家族様 .....	5
②	企業様 .....	18
③	関係者様 .....	27
④	昭島市障害者福祉ネットワーク会員様 .....	36
⑤	多摩地域障害者就労支援事業実施団体様 .....	47
⑥	NPO 法人チャレンジドステーションクジラ関係者 .....	52
	おわりに .....	57

## I. クジラのあゆみ

私の息子が非言語性 LD（当時の診断）との診断を受けていた 1990 年代の初頭、まだ、発達障害の概念も定まらず、支援の施策も皆無同然、その存在さえも一部の学者が唱えていた時代に、私はもう一人の LD 児（当時の診断）を抱えたお母様と出会いました。この子たちが生きていくには何が必要かを模索していく中で、二人が行き着いた答えは地域で同じ子どもを抱えた親御さんたちとの繋がりを持つことでした。

そして、私たちはこどもたちが生活し、学び、暮らしていく身近な地域で発達障害の理解と支援の輪を広げるための組織作りを始めました。やがてその輪は広がり、発達障害児の親、保育者・教育関係者を対象とした『LD児・者を考える会「くじら」』が 1994 年 2 月に誕生いたしました。

地域に根ざした「くじら」の様々な活動は、多くの人達からの理解と支援を頂くことができました。また、並行して教育行政への働きかけも行って参りました。

昭島市教育委員会は国や都に先駆けて、発達障害児の理解と配慮のためのパンフレットを作成し、市内の教職員一人一人に配布しました。その後、発達障害児を対象とした通級指導学級の設置も行われました。当時、発達障害児（知的障害児は含まず）に特化した通級指導学級は全国的にも先駆的な取り組みでした。こうして教育行政では、理解と支援が進んでいきました。

やがて子どもたちが成長し社会に出ていくと、就労という大きな壁が立ちはだかりました。社会に出た彼らを支える仕組みをどうしたらよいか、私は「くじら」のメンバーでプロジェクトチームを編成し、この課題に着手して行くことにしました。

彼らが就職し、働き続けるための支え。障害者と企業の架け橋になり、雇用する側もされる側も良い関係を長く保っていく支援。それは発達障害者のみならず、身体・知的・精神等のすべての障害者が必要としていました。「くじら」が出した結論は「全ての障害者が安心して働き続けるために、昭島市に障害者就労支援センターをつくりたい！」

「くじら」のプロジェクトチームは地域の福祉団体に働きかけ、障害者就労支援センター設立に向けて活動を始め、市内約 20 の福祉団体の協賛を得て検討を重ねていきました。

やがて、企業や学者、教育関係者等からも協力の手が差し伸べられ、障害者の就労支援事業は昭島市の障害福祉施策として取り上げられることになりました。

このような歩みを経て、一般就労を目指す全ての障害者に対する就労支援及び就労に関する生活支援に関する事業を行い、もってその自立に寄与することを目的とする団体として 2002 年 7 月に「チャレンジド ステーション クジラ」を設立しました。その年の 10 月に昭島市より業務委託を受け昭島市障害者就労支援事業を開始することができました。

障害者就労支援センターが誕生するまでには本当に多くの方々のご協力やご支援をいただきました。人と人との繋がりの大切さも学びました。皆様に心より感謝申し上げます。

元 LD 児・者を考える会「くじら」 会長 東條 由美子

## II. 昭島市障害者就労支援センター クジラ業務について

当センターは常勤3名、非常勤1名の体制で業務を行っております。通常の開所時間に相談にいらっしゃれない方のために第1金曜日は21時まで、第3日曜日は10時から16時まで開所して対応しております。他にも利用者様、企業様のニーズに合わせてリアルタイムで支援に入らせて頂いております。

事業開始の2002年度の事業実績は利用登録者30名、相談件数340件でしたが2011年度の実績では利用登録者148名、相談件数3,871件と大幅に増えており、需要の高さが見えます。また、最近の傾向としまして、障害の重複化や多様化、家庭環境の複雑さを抱えた利用者様が増えております。また、高学歴の利用者様も増えております。

利用者様一人ひとりが抱えていらっしゃる問題もニーズも異なり、また障害特性や個別特性も異なりますので、一人ひとりと丁寧に向き合い、何よりも信頼関係を築くことから支援が始まります。そして、その方が輝いて働き続きられますように、その方のためのオーダーメイドの短期と長期の支援計画をもとに、継続した支援をさせていただいております。

当センターへ相談にいらっしゃる方の中には、本来抱えていらっしゃる障害特性そのものよりも、成育歴（家庭環境、教育環境、社会環境）の中で更に抱えてしまった二次的な障害のため、他罰的・内罰的に陥り、就職をより困難にしてしまう方がいらっしゃいます。とても残念に思います。

二次的な障害の強い方には長い時間をかけて、メンタル面でのサポートも併用しながら就職準備訓練を提供していきます。そのような方が就職し、雇用主からの期待と要求に応え企業人として成長していく姿を見るのは、就労支援の仕事に就く者の大きな喜びでもあります。

利用者様を雇用されている企業様へ定期的に職場訪問をさせて頂いておりますが、いつも感じることは、皆様大変ご苦労をされながら、個に応じたきめ細かいご指導をされていることです。現場の方の負担感や不安感が少しでも軽減できるようにお手伝いさせて頂いております。企業様との信頼関係が築け、パートナーとして認めて頂けることも大きな励みであります。

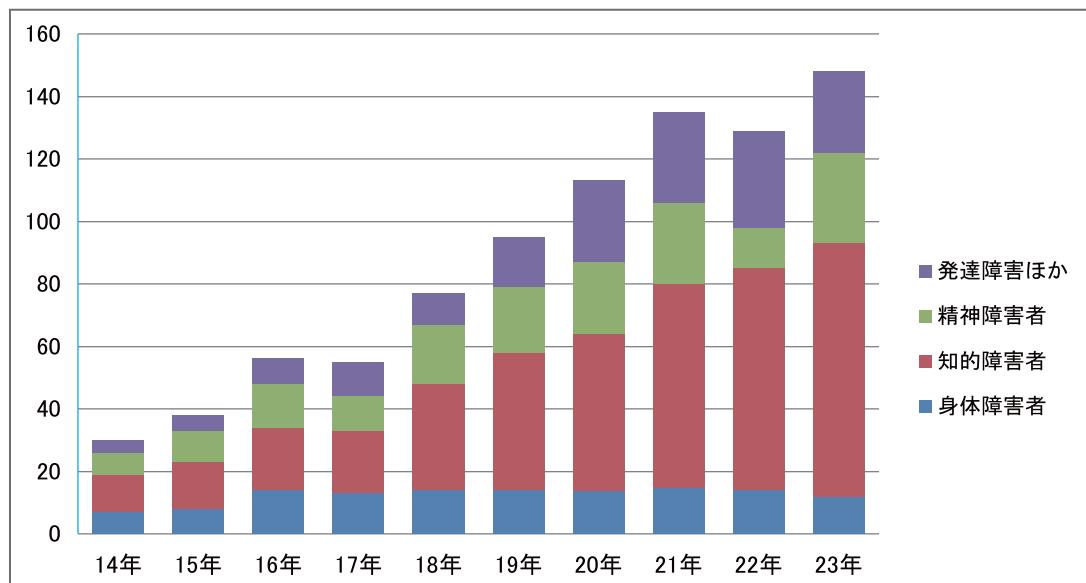
障害者を雇用している企業の方から、「彼らが働くようになってから会社全体が穏やかになった」とよくお聞きいたします。彼らが社会に果たす役割は大きく、その存在は社会的に大きな意義があると思います。私たち支援機関も彼らから大きなパワーをいただき、学ばされることがあります。彼らから頂いた大きな力へのお返しに、私たちも、より質の高い支援を提供していかなければと日々、奮闘努力をしております。

昭島市障害者就労支援センター クジラ  
センター長 東條由美子

### III. 10年の昭島市障害者就労支援事業実績

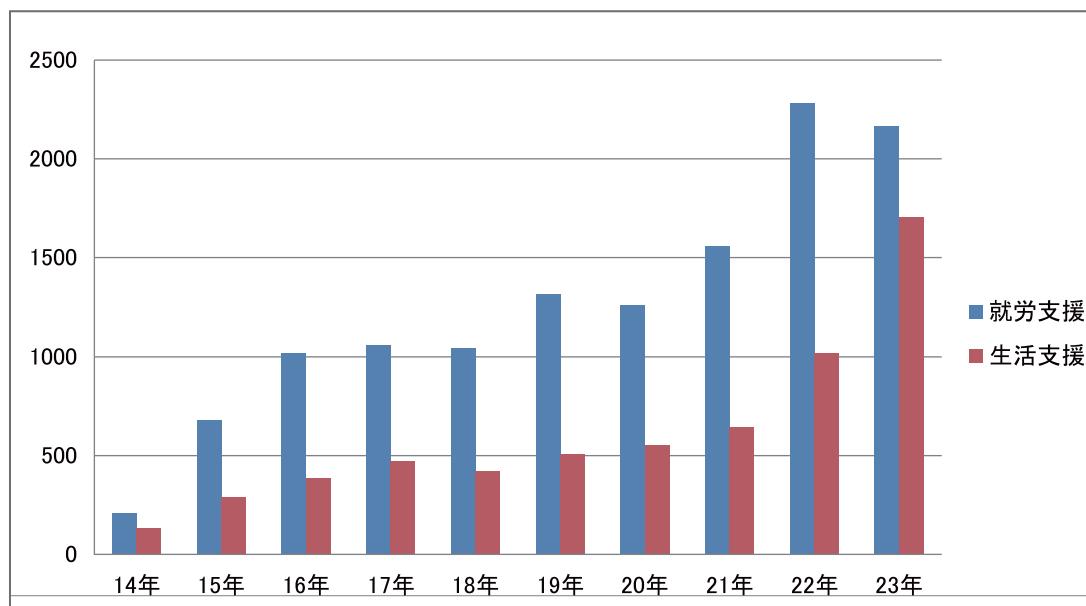
«10年間の事業実績の推移をグラフで表してみました»

#### ① 障害種別登録者数



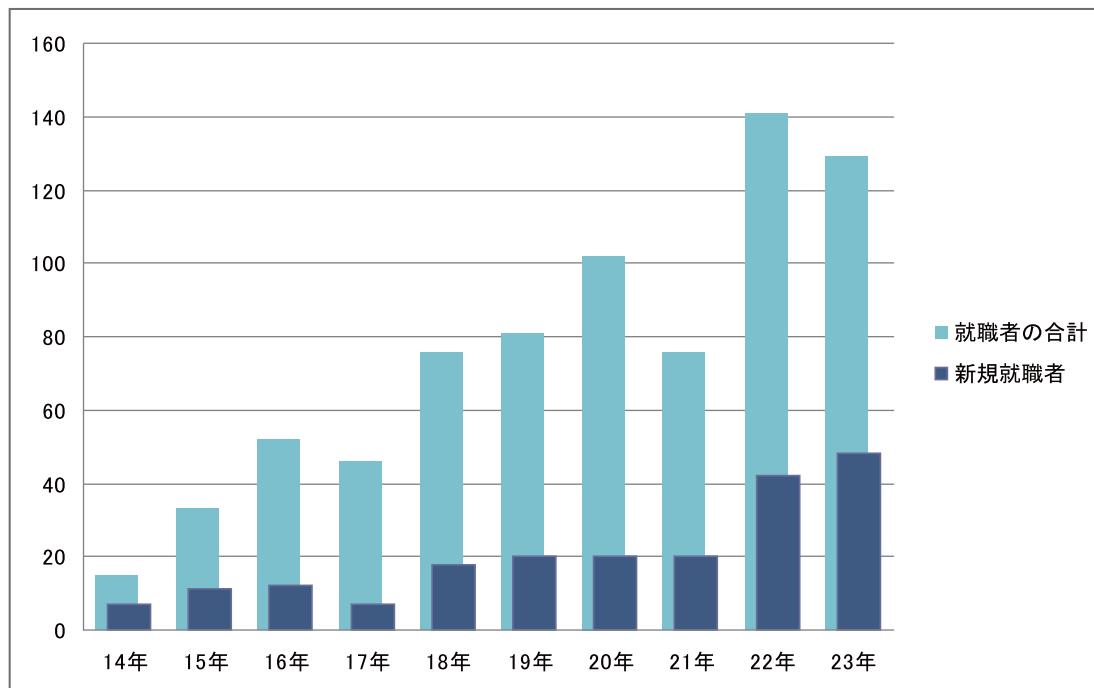
	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	合計
身体障害者	7	8	14	13	14	14	14	15	14	12	125
知的障害者	12	15	20	20	34	44	50	65	71	81	368
精神障害者	7	10	14	11	19	21	23	26	13	29	173
発達障害ほか	4	5	8	11	10	16	26	29	31	26	166
合計	30	38	56	55	77	95	113	135	129	148	876

#### ② 支援実績



	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	合計
就労支援	207	679	1,017	1,056	1,045	1,316	1,259	1,560	2,282	2,165	12,586
生活支援	133	288	384	473	421	505	555	641	1,019	1,706	6,125
合計	340	967	1,401	1,529	1,466	1,821	1,814	2,201	3,301	3,871	18,711

### ③ 就職者実績



	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	合計
新規就職者	7	11	12	7	18	20	20	20	42	48	205
継続就職者	8	22	40	39	58	61	82	56	99	81	546
就職者の合計	15	33	52	46	76	81	102	76	141	129	751

### ④ 就職先 職種・組織形態（平成 24 年 9 月現在）

職種

	(%)
清掃	16.9
食品加工	4.8
調理補助、器具・食器洗浄	18.1
販売	12.0
倉庫内業務	8.4
事務・事務補助	18.1
製造	4.8
その他	16.9

組織形態

	(%)
一般	77.1
特例子会社	21.7
第3セクター	0
その他	1.2

☆10年間の事業実績、グラフから読み取れるもの

- ① 登録者数は 10 年で約 5 倍、全ての障害で増加、特に、知的障害は全体に占める割合が 54% となっております。
- ② 支援件数は 10 年で就労支援、生活支援とも 10 倍超の実績となっており、就労継続の増加に伴い生活支援の占める割合が 29% から 44% へ増加しております。
- ③ 新規就職者数は 10 年間で 200 名を超え、厳しい雇用環境での継続雇用の支援も発足当初からは大幅に増加し、今後も強化していく必要があります。
- ④ 職種としては当初、清掃、倉庫内作業が主でしたが、最近は多岐にわたり、特に事務系が増えております。

①利用者様・ご家族様より

---

私の子達は家で育ったので無く養護施設で育ちました。私は自分が分からなくなり食事もできなくなり今まで死んでしまうと、入院となりました。毎日点滴をして気がついた時には、家族が子供達を見てくれました。しかし、私の病気は良くならず、焦り、病院で自分を責め苦しんでいました。子供達は立川児童相談から武蔵野児童学園に入所して育ちました。3人いっしょに入所して5才3才2才でした。一ヵ月に一度、家に帰って来る子供達を見るのは楽しみでした。

この度くじらさんにお世話に成り、今後もお願ひします。小学校5年生の時にお兄ちゃんが知的障害者だといわれ、自分が育てられたならと思いました。娘もおなじです。私は何もしてやれなく色々な事をくじらさんにお願いしています。成長する子供になにもできず電話で色々な事、誠実に教えていただきながら、おなじ子供でも普通の子供を見るにつけ心中おだやかでありません。普通であればと思うのは高望みでしょうか。

お兄ちゃんはホテルで鍋皿洗いをしています。本人は大変だ、といっているが毎日行っています。早番の時も遅番の時も一生懸命頑張っています。娘は東京都立南大沢学園を卒業して、学園の紹介で就職した荻窪駅南店に5年勤務して、ある日、立川駅でパニックに成り、その後どうしても電車に乗れなくなり、くじらさんに家の近くの職場を紹介して貰いました。今、私が職場まで一緒に送って行っています。今の職場で仕事をさせていただいて毎日楽しそうに帰って来ます。でもパニック障害さえなかつたら、普通に見えたのにと、どこへでも一人で行けたのにと、悔しくてなりません。これから自活するようにくじらさんに色々な面でお世話になります。時間がかかると思います。前の輝いていた娘にもどると思います。

子供達の道筋をお願いします。支援をお願いします。よろしくお願ひします。

利用者の母

---

残暑厳しき折り、貴社に於かれましてはご健勝にてお過しの事と存じます。  
貴社には色々とお世話になりながら平素の御音痛く心に思って居ります。  
就職時にはひとかたならぬご厚情を賜わり深く感謝致して居ります。  
お蔭を持ちまして子供も今、仕事に取り組んで居ります。これも一重に貴社のご支援のお蔭と有難く思って居ります。これからも何かとご迷惑をお掛けする事もあろうかと思いますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。  
先ずは設立十周年おめでとうございます。

利用者の父

---

支援センタークジラに御縁をいただきまして一年になります。センターの方々そして担当職員さんには多大なるお力添えをいただき心よりお礼を申し上げます。  
我が家子と共にセンターの方々には感謝の気持ちいっぱいです。  
これからもセンターの方々にはお世話になると思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

利用者の母

---

『昭島市障害者就労支援センタークジラとの出会い』  
私は昨年 11 月 20 日まで川崎市内にある、化粧品会社の工場に正社員として 34 年間働いていました。  
9 月 2 日突然会社より、父親に呼び出しの電話連絡が有りました。工場長より会社の都合により、11 月 20 日までに退職してもらいたいと話がありました。  
入社時は 20 人近い障害者の仲間がいたのに、1 人減り 2 人減りで 4 年前最後の 1 人になつても、定年まではと頑張ったのに残念でした。  
将来のことを考え、市役所の窓口に相談に行ったら、就労支援センタークジラを紹介され、御世話になることになりました。  
センターでは、ハローワークでの離職、求職、職業紹介依頼等の手続きも同行して頂き、無事終えました。また職業準備支援、面接のリハーサル、履歴書の書き方等も指導して頂き、1 月中旬、ゆうせいチャレンジド株式会社ありがとうセンター支店を紹介して頂き、2 月 15 日ハローワーク府中で面接、クジラより担当職員さんが同行してくれ本当に心強かったです。  
お蔭様で 2 月 22 日採用決定、4 月 2 日入社式（クジラより 2 名採用、クジラ職員同席）  
ありがとうセンター支店は、仕事の指導や相談に乗ってくれるシニアコーチ、とコーチ 7 人、先輩社員 20 人、新入社員 10 人と 37 人の職場です。  
仕事は（キャンディの袋詰）の作成です。  
各コーチの、慌てなくて、ゆっくり確実に、わからないことは、何時でも聞いて下さい、の暖かい支援に支えられ、仕事にも慣れ、毎日が楽しくてあつと言う間に半年が過ぎようとしています。  
くじらの皆様本当に有難うございました。今後ともご支援、ご指導の程をお願い致します。

糸永真理

---

クジラを利用して、約 4 年になります。

始めは、パソコン訓練でした。Word と Excel です。訓練をしたお陰でできるようになりました。その後、しばらくクジラでお手伝いみたいな感じで何回かパソコンをやったり、面接の練習を何回もやりました。

そして、会社に行って面接を受けました。もちろん、付き添ってくれました。3社のチャレンジ雇用を受けました。2社の方はトライアル雇用に進み、3カ月間と6カ月間、行きました。細かい仕事が好きな私にとってはいい経験でした。

いろいろとお世話になりました、ありがとうございました。

今後共、よろしくお願ひします。

利用者

---

設立10周年を迎えるとの事、誠におめでとうございます。

クジラの職員の皆さまの活動に本当に頭が下がります。

今後ともよろしくお願ひ致します。

利用者の父

---

初めて地図を見てクジラセンターに行ったんですが、いまいち分かりづらかったですがなんどか行けました。説明をしてくださりありがとうございました。

担当職員さんが職場に来ると聞いてドキドキしていました。仕事をしている所を見られるのはちょっとはづかしいです。担当職員さんと話をしていて話しやすい人で良かったです。お忙しい中何かいも来てくださりありがとうございました。

クジラセンターから届くお便りの写真は、白・黒で誰が誰だか分かりづらいです。参加したいのですが、火、金の休みなのでなかなか参加できません。

これからもよろしくお願ひします。

池田理紗

---

私は、平成21年に就労支援センタークジラに入りました。その年の5月から7月にかけて就労委託訓練のパソコンコースを習得しました。初めは、なれないで大変でしたが、何とか訓練を終了しました。それから、就職先を探すのですが、これがまた大変で、まず履歴書を書いてハローワークで仕事を探します。履歴書の書き方は、指導してもらえますが、なかなかうまく書けません。それもそのはず、20年ぐらい仕事をしていないのですから。それが祟ってか、そのあと数十件仕事に応募しましたが、面接に至ったのは、1、2件です。そういうわけで、今度は、ゆいのもりに入りました。そこでまた就職の機会を狙っています。

高野雅司

---

私が昭島市障害者就労支援センターを利用して印象に残ったのは、障害者パソコン訓練事業と私が今の職場に勤める事になるまでの長い道のりです。

担当職員さんに障害者パソコン訓練事業に参加してみませんか?と聞かれその時に参加したのが私の運命を大きく変えたのかもしれません。

その時に参加していなければ今の生活とは全く違った生活を送っていたかもしれません。

パソコン教室の授業の終盤辺りに私の最愛のペットのウサギが息を引き取りました。その事がきっかけで今の私は強くなれたような気がします。あの時の涙は未だに覚えています。

担当職員さんに今の職場を推薦され現在に至ります。私を推薦して下さった担当職員さんにはとても感謝しています。

これからもよろしくお願ひします。

長谷川勇人

### 『クジラでお世話になった事』

僕が、このクジラを初めて知ったのは2005年の事でした。19年働いていたオリエントメタルが倒産してしまい、職を失っていた僕が、職安を通じて教えてもらったのがこのチャレンジドステーションクジラでした。そこで、担当職員さんと知り合い、色々な職場の見学をしながら、ようやくたどりついたのが、郵便局の清掃係という仕事でした。最初にインターフィップを受けた、立川郵便局には採用されませんでしたが、次に行った東京多摩局(現東京多摩支店)について採用されました。初期のメンバーは、僕の他にAさん、Bさん、Cさん、Dさんの5人。途中でDさんがほかの郵便局に転勤になりましたが、今年の4月からは、新しくEさんが入りました。

もし、クジラを紹介されていなかったら、もう働くところがなかったかも知れません。本当に職場が見つかってよかったです。担当職員さんをはじめ、皆さん、いい職員さんで自分は恵まれていたと思います。

それと、郵便局でお世話になっているシニアコーチさんとコーチさんです。この2人に会っていなかったら今の自分はなかったかも知れません。本当にクジラを紹介してもらって僕はよかったです。これからも仕事の事で困った事があったら、クジラに相談したいと思います。

最後に僕は、本当にクジラと出会ってよかったです。

これから頑張るのでよろしくおねがいいたします。

本当にありがとうございました。

稻村和利

チャレンジドステーションクジラ様、10周年おめでとうございます。  
クジラさんにお世話になって5年が経ちます。  
はじめて訪問したとき、とっても親身に話を聞いて下さり、病になった私でも何かできる  
かも知れないと希望が涌いてきました。  
温かい励ましの中、ゆっくりですがまさかの！社会復帰することもできました。  
今の職場で働いて3年が経ちます。  
上司も社員の方も障害に分け隔てなく接して下さり、良い人たちに恵まれ、最高の職場で  
働いております。  
今の職場に出会えたのも、クジラさんのおかげです。  
辛いときにはすぐに飛んできてくれ、無理せず体調を過信して仕事をしてはいけないこと  
や私が働き安い環境を考えて、ながく働くようにご指導して下さいます。  
チャレンジドステーションクジラがあって、本当によかったと心から思います。  
クジラさんに大感謝！  
これからもご支援宜しくお願ひ致します。

R. M

---

僕は以前洗びんセンターで働いていました。  
4年前に、チャレンジドステーションクジラの紹介で現在オリンパスサポートメイト株式  
会社で清掃の仕事につく事になり朝8時15分から4時30分迄休日はほぼカレンダー通り  
で働く事に喜びを感じチャレンジドステーションクジラに感謝しています。ありがとうございます。

中村広司

---

### 『チャレンジドステーションクジラの皆様』

私は、中学卒業し、約13年間、働いた会社が、不景気のため閉鎖になってしまい無職となつてしましました。その後、就職活動を、しましたが、なかなか仕事が決まりず、もう仕事はできないのだろうかと、不安な毎日を送っていました。

リサイクル洗びんセンターに面接に行ったら、クジラに相談してはどうかと紹介してもらいました。どんなところか不安でしたが、行ってみたら、職員さんの方達は、親切に迎えてくれました。面接の練習や、ハローワークや面接に、いっしょに行ってくださいました。仕事が決まったあとも様子を見にきてくださいました。

クジラの職員の方達のおかげで、私は今の仕事をすることが、できました。  
本当にありがとうございます。からの支援をよろしくおねがいします。

指田達也

---

10周年おめでとうございます。チャレンジドステーションクジラの皆様には、大変お世話になってもう8年を過ぎました。

息子がリサイクル洗びんセンターへ面接へ行った際、所長様よりこちらを紹介されました。不安でしたが、職員皆様は暖かく迎えて下さいました。その後クジラに通い、いろいろ話を聞いたり、そして面接指導、手続等を、一緒に行ってくださり、池袋の会社に勤める事ができました。遠くへ行った事もなく、とても不安でしたが、最初は、一緒に行ってくださり、やがて遠くから見守り、一人で通えるようになり、2年以上勤めました。一人で電車に乗り、池袋まで通った事は、とても貴重な経験となりました。又、将来は近い場所で働きたいと希望している事も覚えてください、今は北八王子の会社に勤めるようになります。もう5年目に入りました。今の職場は、とても親切な方ばかりで、居心地がいいようです。そして現在もクジラの方は、時々、様子を見に来て下さいます。

これからも、ご指導よろしくお願ひ致します。

利用者の父

---

僕は、ゆうせいチャレンジドありがとうございますセンター支店で、あめを袋に入れてシールを貼る仕事をしています。こんど検査と梱包の仕事もやるようになりました。秋には、ボーリング大会と食事会があります。よい会社に入れて本当によかったです。

小堀雅彦

---

#### 『昭島市就労支援センター クジラ設立十周年おめでとうございます』

私の息子は、都立養護学校を卒業後一般会社で働いておりましたが、勤めていた会社を辞めたいと言い出し、私も、息子の怪我等で不安を感じていたのでこれ以上仕事を続けていくのは無理だと決め会社を辞めました。

再就職先を探す為、親子でハローワークに通い障害者用タッチパネルで職探しを始めたのですがなかなか就労先を見つける事は、できません。不安になっていた時クジラを紹介していただきました。センターに登録してからは、パソコンの基本操作、履歴書の書き方、面接の指導をしていただきました。求人先を紹介していただき就職試験を受け何度か不採用の通知がきましたが、職員の方に、親身の指導をしていただき、今年の四月から、ゆうせいチャレンジド株式会社に入社する事ができ頑張っています。特例子会社に就職するには、就労支援センターの紹介が必要な事を知り、本当に感謝しております。クジラの皆様今後とも、よろしく御指導下さいますようお願い申し上げます。

小堀みづ子

クジラさんに登録して一年がたちました。  
自立支援の申し込みや心身障害者福祉センターへの、検査の勧めもありました、  
その結果、今はとても心身共に良い方向に進んでいます。  
私の勤め先は（株）ペプシコーラ多摩支店です。  
(障)雇用での採用で働き出して2ヶ月半になります。  
支店内での仕事は清掃及び事務の補助雑務が主な仕事です。  
周りの人の手助けと自分のできる範囲の中で、  
迷惑をかけずに仕事をしていくことを心掛けています。  
毎日の挨拶、気くばり等仕事を通して感じることは毎日の過ごし方だと思っています。  
クジラさんに登録してから認定を受けたことによって、大変なことよりも得ることの方が  
とても多かったです。  
支援して下さったり手助けしてくれる人が増えたことによって、自分自身も余裕がうまれ  
人に対して以前よりやさしく接することが増えたようになりました。

平野悦子

---

此の度、昭島市障害者就労支援センター設立十周年誠におめでとうございます。心から  
お悦び申し上げます。

私共がチャレンジドステーションクジラとの出会いは、三男和利が十九年勤めた会社が  
突然の倒産と知り驚きと同時にこれから先の事を考えると現実、年齢、仕事、と色々と悩  
み苦しみの中でハローワークを尋ねました。事情を話し聞いていただきその時、障害者就  
労支援センターが拝島に事務所がある事を初めて知りました。

紹介して頂きその日の内に息子と共に事業所にお伺いしました。  
心良く迎え入れてくださり職員の皆さまの誠意ある対応とアドバイスをしてくださり、翌  
日から通い、就職活動が始まりました。

難しい就職難の時代に息子にあった仕事があるだろうかと気掛かりと心配でしたがお骨  
折りとお蔭様で現在は多摩ゆうせいチャレンジド株式会社に就職する事が出来、働かせて  
頂いております。

理解あるコーチのご指導のもと安定した明るい職場で仲間の皆さんと仲良く作業するこ  
とができる、今では働く事が喜びに見え、私には感じます。親としてこの上もない喜びです。  
又チャレンジドクジラの毎年の催しにもお誘い下さいまして息子は楽しみに参加させて頂  
いています。

チャレンジドクジラとの出合が息子の人生を変えて頂きました。本当にありがとうございます  
いました。心からお礼申し上げます。

どうぞこれかもよろしくお願い致します。

チャレンジドの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

利用者の母

---

支援センタークジラの担当職員さんや皆さんには大変お世話になっております。ありがとうございます。

パソコンスクールでの勉強で友達ができて3ヶ月、ほんとに楽しい毎日でした。

支援センターの皆さんには感謝しています。

これからも担当職員さん、支援センターの皆さんにお世話になると思います。どうぞ宜しくお願い致します。

根本勝利

---

昭島市障害者就労支援センタークジラにお世話になって早いものです。3年くらい過ぎたのでしょうか？

息子が10年以上も勤めた職場をやめ、失業…どうしてわからずにいた時に職安より紹介していただき、センターにお世話になりました。

行く職場もみつからないままに、職業能力開発校にてお世話になり、今の職場に2度目のチャレンジで受かり職に就くことができました。

お世話になってから、息子と向かい合って話をしてくれたり、親の私の心の悩みを何度も時間をかけて聞いて下さいました。話しをしながら何度も涙を流した事でしょう。過去の話をしているのに受け止めて下さる方がいるという事は・・・話すことにより自分の心中にある重荷が下り、センターのドアの外へ出る時には少し心が軽くなった気がして帰宅したものです。

おかげ様で息子も入社してから3年目になるでしょうか。一日も休まず今では仕事にもだいぶ慣れた様子です。

入社当時はセンターの方に、職業能力開発校の先生もいく度となく職場の様子を見に行っていただき感動しました。

この頃は担当職員さんが職場訪問を時々して下さり、職場の様子を知る事ができ、少し気になる事など、相談にのっていただいています。

生きるという事は借りをつくる事、そして返していく事、そんな言葉が最近心に残りました。今、親の私は年金生活の中で、残り少ない人生をどれだけ借りを返していくのかわかりませんが明日を見つめて、御世話になった方々に感謝しながら生きていきたいと思っております。最後にほんとうにありがとうございます。これからもよろしくお願ひ致します。

利用者の母

---

この度、チャレンジドステーションクジラが設立 10 周年を迎えた本当に喜んでとうございます。

私どもが今現在に至るまで、家族だけではどうして良いか？わからない時に、こちらの支援を受けることが出来、本人も私たちもここまでこれました。

平成 13 年 3 月 10 日に交通事故にあい、脳挫傷、急性硬膜下血腫で生死をさまよいました。また高校 2 年生 17 歳の出来事でした。約 3 カ月弱の入院生活を終え、5 月 30 日に退院しここからが私たちの思いがけない本人の症状に戸惑うばかりの生活が始まり、頭部に外傷を受けると“何んなの？ 何これ？” というそれが高次脳機能障害という後遺症でした。

あまりの人格変貌、本人の自殺願望もあつたり、どの様に接して良いか、目がはなせない状態で、家族も疲労困憊の時期でした。この先、どの様にどうしたらもとの事故前のサッカー、ラグビーが大好きなあの時のきらきら輝く姿をもう一度見られるのか、どこまで回復してくれるか、できる限りの事をしました。そんな中通院しながら自宅療養中、あいぽつくの 1F にある喫茶室でチャレンジドステーションクジラの存在を知る事が出来、平成 15 年 1 月にチャレクジに相談に行き、ここから私たちの心は救われました。ありがとうございました。

高校 2 年生で通学していた学校も自主退学しましたが、チャレクジにて、19 歳の時に星槎国際高等学校を紹介して戴き、通学しながら障害者職業センターへの相談、検査を受けたりと、たくさんの時間を使いアドバイス、ご指導を受け、何ヵ所かの職場で働く事が出来ました。そのたびに親子共々励まされ、障害を受け入れる難しさと戦いながら、どれ程助けられた事か。疲れはててしまう時も多々ありましたが、一生懸命支援して下さり、あきらめず接してくれました。正直、親が負けてしまいそうになっても、本人が小さい時からスポーツで鍛えた精神力の強さ、うたれ強さ、人に馬鹿にされながらも良くここまで頑張ってくれたと親として誇りに思い誉めてあげたいです。今でも思うと胸が一杯です。東海大学八王子病院にてリハビリを受けながら、高次脳機能障害の会があると一緒に足を運んでくださったりして症状も固定しながら 20 歳で星槎国際高等学校も卒業する事も出来ました。

今、現在オリンパスの清掃スタッフとして平成 19 年 9 月より、働きながら人生の色々な経験をこの何年間で味わい、更なる成長をしてくれました。そんな息子も今では 29 歳、まだまだこれから的人生を楽しく過ごして欲しいと思います。そして困ったとき、いきずった時だけ電話で相談させていただき、かけこみ寺的存在にしていますが、本当にありがとうございます。感謝いたします。1 人暮しをしている我が息子、来年 30 才、自立できるように頑張っている最中、職場でも悩み事がありながらも沢山の支援を受け、くじける時もあります。でもその時にゆっくりあせらず歩む様に心掛けております。私共は高次脳機能障害で就労支援センターがある事すら知りませんでした。知らずに困っていらっしゃる方々の、やすらぎの場になります。

これからも更なるご活躍を願っております。

末永憲一郎 恵子

昭島市障害者就労支援センタークジラ様、設立10周年おめでとうございます。

私は、今年4月からお世話になっています。関わりがまだ深いわけではありませんが、就労支援センタークジラを利用して、よかつたことを挙げていきたいと思います。

- ・誰かに相談をする機会が増えたこと
  - ・相談してからの行動を考えられたこと
  - ・障害者の社会的立場を知れたこと
  - ・他の障害者の方の状況と、現在どのように行動しているかを知れたこと
  - ・障害者の現状と今後の社会的な立場がどのように変わっていきそうなのかを知れたこと
- 以上のことと、障害者就労支援センタークジラに関わったことで知ることができました。

今、関わりのある方、今後かかる方の方に、クジラに関わることでよき方向に向くことを祈り、寄稿させていただきます。

Y.M

---

東條さんへ

8年間お世話になってます。

初めは誰も信用できませんでした。

人間関係とか人生相談とか

いろいろ相談してからなじむようになりました。

NECフレンドリースタフに入っていろいろなことがありました。

だから今の自分がいると思います

勉強とかパソコンとか面接とか色々感謝しています。

(辻より)

辻俊介

---

2010年よりお世話になっています栗原彬の母です。

小さいころより他のお子さんと比べると発達が遅いけれど障害名はつけられないと医者に言われ「この子はどんな事をすれば良いの？」と悩みながらの子育てでした。就職が決まった時も又、私達家族だけで問題解決をしなくてはならないのかと、うれしさよりも悩みの方が大きかったと記憶しております。支援センターを紹介して頂いた時初めて一緒に考えてくれる第3者ができたと心強く感じました。相変わらず3歩進んで2歩下がる彬ですが、トラブルが起るたびに一緒に考えて頂きましてありがとうございます。親子共々本当に感謝しております。まだまだ何かが起こりそうな息子ですが、これからも宜しくお願ひ致します。

栗原宏美

---

今の会社で働くようになり毎日充実しています。「仕事をする」とはこういうことなのかと日々実感しています。

担当職員さんからよく言われていた「安心して仕事を任せて貰えることが最大の褒め言葉」ということも最初は意味が分かりませんでしたが今は本当にそうだなあと思います。仕事は一人では出来ません。自分の頑張りはもちろん必要ですが上司を始めとする会社の方々、家族、担当職員さん、主治医の先生、友達と様々な人達に支えられて成り立っています。このことは忘れちゃいけないことだと思います。

今後、色々なことが起こり調子の悪い時もあるかもしれません。  
それでも、きっと今の自分なら乗り越えていける気がしています。

これまで遠回りしたかもしれませんのが無駄なことは一つもありません。  
様々な体験や経験を通して今があるように思います。

くじらの皆様、特に担当職員さんには本当に感謝しています。  
今後ともよろしくお願ひ致します。

小松知佳

---

### 『チャレンジステーション・クジラとの出会い』

クジラとの出会いがなければ、今頃ずっと日雇い派遣で働いていたかもしれません。クジラと出会い、障がい者枠をオープンで採用されるまでの約1年間、僕のジョブコーチである担当職員さんとの就職活動はなにもかもが挑戦の連続でした。担当職員さんを都内の色々な所に連れ回して大小様々な合同面接会に参加しました。けれども不採用通知ばかりで、担当職員さんと苦労を共にした事は今では思い出です。

そして霞が関での約2年間の厚生労働省のチャレンジ雇用を経て、現在のSRLという民間会社に転職できたのも担当職員さんの支援があったからこそ成し得た成果です。今でも厚生労働省で勤務した時から6年間連続で欠勤0は僕の大きな自信です。厚生労働省やSRLでの会社での周囲への配慮を上司に伝えて頂いた事は、感謝の気持ちでいっぱいです。時々会社に訪ねてくれる際に直接、担当職員さんに言った事はありませんが、いつも心の中で「ありがとうございます」と思っています。毎年、開かれるお花見会やクリスマス会も楽しみにしています。今では沢山の方が参加されるイベントになりましたね。顔なじみの友達もできました。最初に参加した時は採用前で浮いた存在でした。けれども今では常連です。これからはクジラの広報担当として、クジラの利用者さんの目標になれるよう仕事に精進する次第です。

小熊俊雄

---

### 『チャレクジ ディケイド』

10年前、息子は中学に入ったばかり、就職なんて途方も無い先の事、「就職支援センターだって。ふーんそんなのが出来たんだ」位にしか思っておりませんでした。

そんな息子も早22歳、就職4年目、障害者ぶりも堂に入ったものです。まさにトラブルの総合商社、私は次々に出てくる問題と我が子の理解に苦しんでいました。

それがこの夏、妙にスッキリする瞬間に出会いました。パズルの最後のひとコマがぴったりあったような快感、それは担当者によって我が子の物の考え方や行動が、「全然フツーの発達障害の考え方だよ」という結論に導かれた事でした。

チャレクジは、我が子の理解できない行動に沢山の答えを用意してくれました。どこから手を付けたら良いか判らない難しい数式、解くのは結局親であり本人なのですが、手がかりをいつも一步先を歩いて見つけて残しておいてくれました。それは完成されたメソッドでも、沢山の書物から来る知識を融合させたものでも無い、実際に人と関わって一緒に悩んで対処したものからの蓄積から来る知恵でした。これがまさにチャレクジの10年の歩みであり10年紀だと思います。その伝授にあずかり、一人で悩み爆発せずに済んだ事は私を大いに救ってくれました。振り返る度に感謝が溢れて参ります。ありがとうございました。(10年紀を「仮面ライダーみたいにカッコ良くディケイドと言ってみました)

佐藤圭子

---

エピソードの提出が遅くなってしましました。

今から、エピソードを送らせてもらいます。

・ぼくが、業務間に何かトラブルがあった際にチャレクジに行ったら、担当スタッフさんより、どこに問題があったか、次は何に気をつけたらよいのか、分かりやすく整理しながら教えてもらいました。

・ぼくが、何かトラブルのような悩みを抱えていた時や、心がいらいらした時にチャレクジに行き、担当スタッフさんに愚痴をこぼしたら、そのスタッフさんが、最後まで話を聞いてくれて、すっきり笑顔で家に帰ることが出来ました。

そうすることによって、夜も気持ち良く寝る事が出来ました。

佐藤千尋

---

10周年、おめでとうございます。

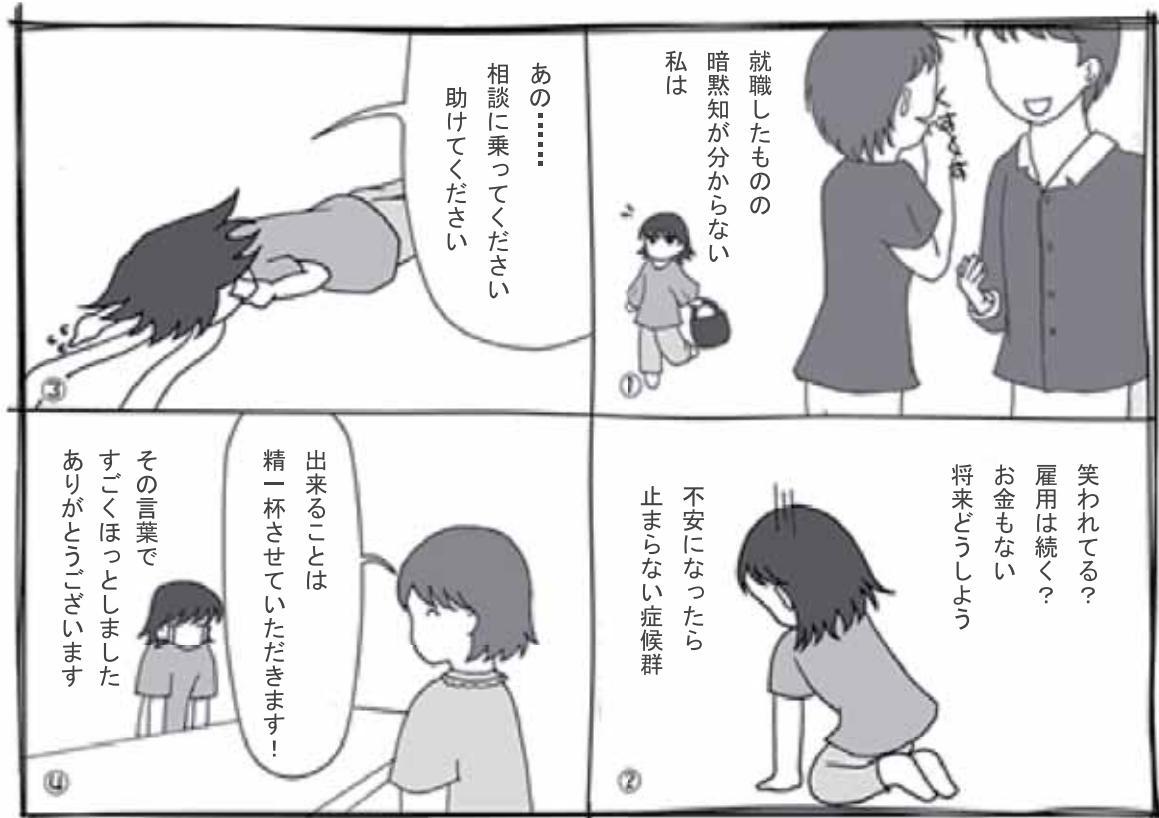
私の息子がクジラ様にお世話になってから9年になります。対人関係に大きな障害を抱えているため、なかなか心を開くことができず、担当の方はご苦労されたこと思います。

それでも、諦めずに丁寧な対応してくださったことに深く感謝申し上げます。

挫折と希望を繰り返しながら、一歩一歩進んで参りました。いつも忍耐強く支えてください本当にありがとうございました。これからも宜しくお願ひいたします。

クジラ様の益々のご発展をこころよりお祈り申しあげます。

利用者の母



くう

この作品はクジラ利用者のくうさんが、10周年記念誌のために描いてくださいました。  
くうさんは企業でお仕事をされていますが、先日イラストを担当された本も発売されました。  
本はクジラ相談室にも置いてあります。

## ②企業様より

---

### 『クジラ 10周年記念に寄せて』

菅原 文夫

障害者就労支援センタークジラの 10 周年、誠におめでとうございます。

さて、私が初めて障害者の採用に携ったのは、8 年前のチャレンジドステーションクジラさんでした。障害者の雇用について何も知識がなかった私自身は、障害者受け入れのために職場の環境をどう整えていくかに頭をかかえてしまい、採用した M 君の能力を理解しようとしていました。

M 君を担当したスタッフには、「ケガをさせるな、危ないことはダメ、目を離すな」と指示し、退社時間を作ったころには、「どうだった、何か問題はなかったか」と尋ねていました。今、その頃のことを思い出すたびに反省をしております。

企業は多種多様な性格をもつ従業員を雇用しますが、働く人たち個々に最適な環境を作ることはいたしません。従業員は、個々の職場のルールを受け入れ、与えられた仕事を効率よく行っています。

M 君も日ごとに職場環境を受け入れ、入社 3 ヶ月後には、他の従業員でも困難な、機械を使った作業を習得し、職場の戦力として活躍いたしました。M 君の採用経験を通じ、スタッフも私もたくさんの事を学び現在の業務に生かされています。

人とコミュニケーションを取ることや、人に感謝される喜びは、誰もが持っている自己実現の欲求です。職場は小さな社会であり、頭で理解するだけではなく、体全体で感じることのできるコミュニティです。

「地元で働きたい、地元に貢献したい」と思う人と「施設から来た」という言葉を使わない人との出会いの職場で、体で感じられるコミュニケーションに心がけたいものです。

本年度は、都内の特別支援学校より 2 週間に渡る新卒予定者の職場体験を受け入れます。仕事の内容、職場の環境や雰囲気、通勤方法、そして街の雰囲気等を感じていたき、学校で学んだこととの違いを発見していただきたいと思っております。

今後も微力ではありますが、皆さんのお力になれば幸いです。

---

オリンパスサポートメイト株式会社

代表取締役社長 矢野 賢一

設立 10 周年心より、お祝い申し上げます、

弊社、オリンパスサポートメイトがオリンパスの総務部の中にスタートいたしました 6 年前から、そして特例子会社の成立後 4 年目の現在も、貴センターより、ご支援ご指導をいただいております。

〈企業様〉

弊社従業員のうち、3名が登録されており、定期的にご訪問を頂き、それぞれに励ましの声かけをいただいているようです。

貴センターの何よりの強みは、就労に向けたしっかりとした準備とマッチングを重視した就職活動だと感じております。それぞれの登録者の作業能力や周囲への適応方法の違いなどを適切に評価され、企業の特徴にあわせた支援をなさっているように拝見しております。それは、登録なさっている方にとっても、企業にとっても幸運なことです。

障害者雇用においても企業への期待や、さらなる努力を求められる状況に応えるべく、弊社も、皆様のお力添えをいただきながら、責務を果たしていきたいと考えます。

平素よりの貴センターのご支援に心から感謝すると共に、ますますのご活躍を心より祈念申し上げます。

---

設立10周年、おめでとうございます。

GEヘルスケア・ジャパン株式会社

製造本部 CT/MR 製造部

部長 大橋 一元

私たちが、昭島市障害者就労支援センター クジラさんのお世話になりはじめて、ずいぶん経ちますが、これまでいろいろな場面で頂戴したご支援に対して、この場を借りて感謝を申し上げます。

当社で働くにあたってのサポートはもとより、仕事内容、職場異動時の準備や不安についてのご相談など、本当に助かっています。定期訪問でのご助言も、専門的かつ的確な視点からのアドバイスで、それぞれの立場を考えた気配りは、さすがと敬服しております。

私たちも障害者の方の雇用に積極的に取り組んでまいりますので、今後も変わらぬご支援をいただきますようお願い申し上げます。

---

株式会社ベネッセビジネスメイト

人事・総務部 定着推進課 横田 朋加

創立10周年おめでとうございます。

弊社からは3名の社員が、貴センターに大変お世話になっております。

Aさんは、特別支援学校卒業をしてすぐ弊社に入社し、学生から社会人への意識を切り替えることがスタートでした。また、Aさんが入社した2005年4月は弊社設立初年度でもあり、弊社の指導員も障がい者社員を指導するのは初めての経験であり、試行錯誤しておりました。

貴センター、職業センターの方々に、イラストの入ったテキスト等を作成して頂き、丁寧に指導を続けて下さったことで、社会人としてのマナーも身につき、これまで7年間安定して勤務できております。現在は、仕事の幅も広がり、会議室のセッティング等、Aさんを中心に作業している業務もあります。また、チャリティ駅伝等の会社行事にも積極的に、笑顔で楽しく参加しています。

クジラ様の定期訪問、支援会議等の関わりの中で、弊社の指導員も長所を活かした指導方法を学び、実践することができるようになりました。今後も、Aさんをはじめ、お世話になっている社員が安定して長く勤務できるよう様々な場面でご指導よろしくお願ひ致します。今後、ますますの発展をお祈りします。

---

### 『クジラ様：おめでとうございます』

N E Cフレンドリースタフ 業務グループ 鈴木 俊秀

設立10周年、おめでとうございます。

小職がこの職場に着任したのが2008年1月、クジラ様とはそれ以来のお付き合いになつております。

チャレンジドたちの職場対応が未経験の私にとって、この職場に飛び込むのに、正直、多少の勇氣が必要でした。

着任したのは良いが、やって行けるのか？まさに“想定外”的連続でした。

そんな時、豊富な経験や知識に裏打ちされた、クジラ様による「従業員目線と会社目線の両面」からのアプローチやサポートは、何者にも勝るアドバイスでした。

ここで、久しぶりに過去を振り返ってみました。

まずは、チャレンジドたちとのコミュニケーションの全般的に言えること：自分自身もそれなりの『聞き方』はしていたつもりなのですが、経験不足は否めない。チャレンジドたち、表現力や理解力に乏しいため、私の場合どうも『聞く』に留まってしまう。「こういうことですね？」と相槌や確認までおこなっているのに、話がなかなか見えて来ない。このような時クジラ様登場。チャレンジドがナイトサポートに伺い『傾聴』頂く。そして結果を連絡頂く。「そっ、そうだったのか！！！」聞いてもらってよかったです・・・しかも適切な対応方法までさすけてもらって。助かった（私です！！）。そうなんです、クジラ様は、当時の私にとって英語の通訳と同じでした。

これは、着任直後の2008年夏ぐらいのことか？：

あるチャレンジドの特性を日誌で聞きかじり、たまたまクジラ様が来られた時にその特性を持ち出したまではよかったですですが、うろ覚えで口に出したのが「ジャンセン」症候群。「聞いたことがないので調べます」という返事をいただきました。それをきちんと調べていただき、『あるにはあるが、チャレンジドたちの特性とは関りない』と言う趣旨の回答

となりました。そりや、当然ですね。実は私の勘違い！「ジャイアン症候群」でした。懇切丁寧な調査結果の報告をいただきました。こんな調査までやらせてしまい、改めましてごめんなさいです。

そういうえば：

「せっかく入所できたグループホームを入所直後に無断で自主退去」なんていうこともありました。事後もフォローいただき、当事者は現在も元気いっぱい当社の就労を継続しております。

チャレンジドたち、生活面が安定してこそその安定就労、日頃の「一人ひとりの個性に応じた心温まる多種多様な対応」、本当に感謝しております。おかげさまをもちまして、今、当社では、会社（仕事）－支援機関様（生活面）－親御様という三位一体の管理体制を確固とした活動の基盤とするに至りました。

この世界、数学や物理の学習問題と違って、彼らの行動は想定外の連続。これからもいろいろ起こるんでしょうが、その局面の一つ一つをクジラ様を初めとする支援機関様といっしょに乗り切り、チャレンジド（期待された人）たちの社会貢献や本物の自立にひと役立ちたいものです。

---

#### 『設立 10 周年の記念にあたり』

東電ハミングワーク株式会社  
園芸事業部長 内山直也

この度は、設立 10 周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、昭島市就労支援センタークジラさまとは弊社設立 3 年目から今日にいたるまで様々な形でお世話になっております。ご支援をいただき感謝申し上げます。

特に就労支援という形で弊社スタッフとご家庭との間を架け橋のような形でのバックアップは、スタッフが安心して働き、社会の中で成長をするためには必要不可欠であると認識しております。

迅速かつ的確なアドバイスや、いかなる時でもスタッフの気持ちになって対応していくことでスタッフのみならず弊社にとっても現在があることはクジラさまのお陰であるといつても過言ではありません。

今後も地域の障がいのある方々のため、ますますのご発展と職員みなさまのご健勝をお祈りいたします。

---

『[ 昭島市障害者就労支援センター・クジラ ] 設立 10 周年によせて』

ゆうせいチャレンジ株式会社

ありがとうセンター支店

コーチ 宮澤利夫

貴センター設立 10 周年、誠におめでとうございます。

“地域に根ざしたセンターを” という理念のもとにスタートされたと伺っております支援センターが、毎年少しづつではありますが着実に地中深く根を延ばし、今ではその勢いは一地域にとどまらず周辺の地域にまで豊かな人材を送り出して頂いております。

私ども「ゆうせいチャレンジ㈱ありがとうセンター」においても一昨年 1 名、今年 2 名のチャレンジが就労しております。お陰様で 3 名共に志し高く、実直にその作業にあたって頂いております。今では支援センターの名の通り “成長しつづけるクジラ” となり社会という大海原を悠然と泳いでおります。

ここに貴センターの設立 10 周年のお祝いを述べるとともに今後の益々のご活躍を祈念致します。

---

コーチ 佐藤 クルミ

貴センターにおいて、10 周年を迎えるにあたり心からお祝い申し上げます。

私の母は耳が不自由でした。そして身内に精神疾患者がありますので、普段から身体に障害を持つ方々に対して特別の思いを抱いていました。

障害を持つ方々は、支援があれば働く、今の日本はそうなのだと、私は強く考えていました。縁あって、今年 4 月から、ゆうせいチャレンジ株式会社ありがとうセンター支店でコーチとして働くことになりました。

30 人のチャレンジの社員とともに、無我夢中の毎日で、気がついたらもう半年が過ぎていました。

チャレンジ社員は、時には素直で明るく、時には怒り、泣いたり、そんな感情の中で仕事に励んでおります。

当社のモットーである、“明るく、楽しく、元気よく”…そのモットーとは裏腹に、チャレンジの社員の人間関係について、当事者はもちろん、私たちコーチも悩んでしまうことがあります。

私は、チャレンジの社員の人間関係について、①当事者のことをよく観察すること。②時間をかけてゆっくり焦らず解決しよう。③当事者がお互いに仕事を通して良いところを見つけあえるように社員をサポートすること…この思いを常に心がけ、“明るく、楽しく、元気よく” 仕事を続けていけるよう、社員とともに仕事に励む毎日です。

## 〈企業様〉

私が受け持っている社員の中に、クジラさんが支援していらっしゃる方が1名おられます。その社員はとてもしっかりしていて、本当に楽しそうに、きちんと仕事を成し遂げております。その社員は、「困ったことや悩みがあったら、いつでもクジラさんに相談できるので、毎日安心して生活することができます」と明るく話しておりました。

これからも、クジラさんが障害を持つ方々の、希望の灯りとしていつまでも燃え続けてほしいと切に願っております。

---

コーチ 岸野和博

設立10周年おめでとうございます。

私自身、特例子会社というこれまで経験の無い環境での仕事に戸惑うことの多い毎日ですが、チャレンジド共々ご支援を頂きながら今に至っております。

チャレンジドが30名に増え、ありがとうございますセンターストアはますます賑やかになりました。

経験豊富な担当の職員さんをはじめ、クジラの職員皆様のお力を借りつつチャレンジドが楽しく、のびのびと仕事の出来る環境を目指し、更なる協力と連携を図っていかなければと考えております。

将来に向けてますますのご発展をお祈りいたします。

---

HOYA 株式会社

PENTAX ライフケア事業部

人事総務部 池田純子

知的障害のある方を雇用することを検討し始めた時、どんな仕事ができるのか、それ以前に、どのように接すれば良いかすら分からぬ状態でした。支援センタークジラさんから近隣の特例子会社を見学する機会を頂き、知的障害や精神障害のある方が活き活きと仕事をしている様子を拝見し、こんなにいろいろなことができるのかと驚いたことを今でもはっきり覚えています。

2011年12月から支援センタークジラさんの紹介で知的障害のある方2名が私たちと一緒に働き始めました。いつも挨拶をきちんとし、「○○さん、メール便です」と明るく声をかけながら荷物やメールを届けますので、コミュニケーションが希薄になりがちな社内に良い刺激を与えていますし、彼らの丁寧な仕事ぶりに気づかされることがたくさんあります。

支援センタークジラの皆さんのご支援は非常に心強く、担当者として少し余裕をもって彼らのサポートができるようになりました。彼らがやりがいをもって働き続けられる職場環境を作りたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

---

株式会社エスアールエル

人事部 教育・採用グループ グループ長 井辻秀幸

私ども「エスアールエル」は病院・診療所を中心とする医療機関から主に患者さまの検体をお預かりし、高度な技術と品質保証体制の下で分析を行い、その検査結果をご報告するという受託臨床検査を主たる事業としておりますが、当社の企業理念のひとつに「個の尊重」という大切にしている考え方があります。

そのコンセプトは「私たちは、お客さま、従業員、一人ひとりを尊重し、個々の可能性を信じて活動します。」というもので、それは全従業員がいつも心に留めている理念であり、企業活動を行ううえで非常に大切にしている価値のひとつとしているものです。誠に手前味噌で申し訳ないですが、私はこの理念だけは素晴らしい考え方であるといつも思いつつ日々仕事をしております。

なぜ最初にこのようなことを申し上げたのかといいますと、それは私が仕事中に障がい者の方々と接しているときにいつも感じていること、それはまさしくこの「個の尊重」という考え方と合致すると思うからです。恥ずかしながら、私が本職の担当になった2008年の暮れ時点での当社の障がい者雇用率は1.44%と非常に低率であった関係でハローワークからは3年間の雇い入れ計画書の提出を求められたところでした。全国で5千人を超える従業員が母数である当社が法定雇用率の1.8%をクリアするためには3年で10人以上の方を採用しなければなりません。新規では障がい者の方を採用することを近年全く行なっていなかった背景もあり、「どうしたものか…」と、コンプライアンス重視のなか不安を抱え、翌年2月に行われた多摩地区の合同採用面接会に参加しました。

そこで初めて「チャレンジド ステーション クジラ」と出会いがあり、結果その面接会では「クジラ」さん所属の精神障がい者と知的障がい者の方を1名づつ、計2名を採用させていただくことになりました。しかしこの採用にあたっては一抹の不安がありました。当社は今まで身体障がい者の方の採用は経験していても、精神、知的障がい者の方の新規採用を行ったことがなく、そのノウハウも全く無かったからです。「職場になじんで定着してくれるか。受け入れ側の職場のメンバーとうまくやっていけるか。」と全てが心配でした。しかしその心配は杞憂であったことがすぐにわかりました。「くじら」さんからはマンツーマンでジョブ・コーチを派遣いただき、障害がいの方々が慣れるまで毎日フォローいただくとともに、当社受け入れ側である私たちにも親身に多くのアドバイスをくださったおかげで、彼らも次第に職場になじんでいくのが日に日に見て取れるようになっていったからです。

それからはもう臆することなく、全国で精神、知的障がい者の方を中心に採用させていただき、昨年末には1.97%の雇用率となり、法定雇用率をクリアするとともにハローワークに提出した3年前の採用計画を大幅に超える達成をすることができました。

そのような中で障がい者の皆さんと一緒に仕事をするようになって私自身わかったことがあります。それは皆さん一様に言えることですが、誰もが何かしら健常者よりも秀でて

いるところを持っていらっしゃるということです。たとえばAさんは「とても物覚えが良く決して忘れない。何時、何処でまではっきりと覚えている」とかBさんは「非常に集中力が高く、勤務時間内は黙々と仕事を続けることができる。」など。実はこのおふたりは「クジラ」さんに所属されている方の特徴です。

表現に語弊があるかもしれないであらかじめお許しいただきたいのですが、人は千差万別で長所（言い換れば短所の裏返し）があれば短所（これも長所の裏返し）があるよう回んでいれば必ずどこかが逆に凸になっているところが必ずあると思います。平均すれば皆同じであり、決してまるくまとまっている人が人間的に素晴らしいとは決して言えない。得手があれば不得手なところがあるのが人ならば、個々人の得手な能力は大いに発揮してもらって、逆に不得手なところは互いに補完しあう、そんな風土が端から端まで行きわたっている会社ならば、将来たとえどんな環境に陥ったとしても決して衰退しない強い会社になるのではないかと思います。

そのような職場環境を醸成するのが我々人事の責務ではないかとこの障がい者雇用の仕事をさせていただいて逆に私自身、自らの職責を再認識させていただいた次第です。「企業は人なり」です。冒頭に申し上げました当社の企業理念のひとつ「個の尊重」の概念である「従業員一人ひとりを尊重し、個々の可能性を信じる。」ということ。その理念のもと、今後も障がいのある方の雇用に取り組んでいきたいと思っています。

私にそのことを教えてくださったきっかけになりました「チャレンジド ステーションクジラ」さんにおかれましては言葉もないくらいに感謝いたしております。今後とも何卒、ご協力いただきますようよろしくお願ひいたします。

---

### 『チャレンジドステーションクジラ 設立 10 周年に寄せて』

西多摩運送株式会社  
総務部 部長代理 土方良秀

設立 10 周年おめでとうございます。

平成 18 年の秋ですから既に 6 年前の事ですが、当社で勤務していただいている障害をお持ちの方々の退職が相次ぎ、立川のハローワーク 3 階にご相談に伺ったところ御紹介をいただいたのが最初のご縁でした。早速クジラさんの事務所にお伺いして所長さんとお話をさせていただきました。当時の事務所は現在と別の場所にあり、幼稚園の横を通った建物の 2 階に事務所があった事を記憶しています。

所長さんからはたくさんのお話を伺い、その後 3 名の方を御紹介いただき、その年の 11 月から当社で働いていただいております。

3 名の方が働いている事業所には 200 名ほどの従業員がおりますが、その中に溶け込むか本当に心配でした。

私自身は本社によりますので仕事の様子を直接見る事はできませんが、数ヶ月後に用事でその事業所を訪問した時、食堂で他の従業員と一緒に食事をしながら話し合っている姿を見たときは本当に嬉しく思いました。今でもその事業所を訪問する時は必ず3人に声を掛け、笑顔を返してもらっています。

障害者の雇用についての詳しい知識がなく、教えていただき助けていただきここまできたというのが実感です。障害をお持ちの方々が仕事に就き、会社の戦力となり、自らの力で収入を得る事は素晴らしい事ですので、昭島市内のより多くの事業者の方々がクジラさんの事を知り、クジラさんも忙しくて大変だとは思いますが、より多くの方が新しい仕事に巡り会う事ができますよう祈念いたしましてお祝いのご挨拶とさせていただきます。

---

### ③関係者様より

---

一般社団法人 障害者雇用企業支援協会（略称：S A C E C）

丹下 一男

確か平成13年のある日、当時旧日本経営者団体連盟（日経連）が労働省から受託中の「トライアル雇用」事務局を手伝っていた私を、LD児を考える会くじらで中心的に活躍しておられた東條由美子さんが訪ねてみました。

その時、私にとって漠然とした知識でしかなかった発達障害について、基本的なことを教えて頂き、少しは理解できたような気がしました。それ迄障害者雇用の意識の大部分を身体障害の人が占めているような状況だった中で、実は働く、働くべき障害者の概念がいかに広いものか、ということを教わったといえるかのかもしれません。

お訪ねの目的は、これら多くの障害者が企業への就職にチャレンジするために、是非地域でそれをサポートする事業を立ち上げたいので、助言が欲しいということであったと記憶しています。

私がどれ程的確な、お役に立つことを申上げられたかは疑問ですが、当時知的、発達、精神などの障害者を受入れることに既に取組んでいた企業では、求人、採用、定着、リタイアの各段階で、同志のように支えてくれる支援機関を求めていましたから、当然ながらお考えに賛同させて頂いたと覚えています。

その後のことは申上げる迄もありません。理事長を始め真に企業の本質を理解された素晴らしいスタッフの皆さんのご努力は申す迄もなく、長く職業安定行政を経験され、雇用という形での障害者の自立と幸せをライフワークとしておられる加納 正さんや、多分現在も天界から見守ってくれている筈の西村晋二スープーバイザーなど、優れたアドバイザーが自然に出現する組織であることが物語るように、信頼される存在として着実に地歩を築き、区市町村障害者就労支援事業をリードしてみえた10年だったと思います。心からお祝いを申上げたいと存じています。

---

元福島大学大学院教授

Space Zero PDD 心理・教育研究所所長

臨床心理士・学校心理士

水野 薫

都教委は、発達障害の子供の指導を、週1回程度の巡回方式に切り替え、「教科の補充指導」を中心に行うように指導している。個別中心の「教科の補充指導」で見せ掛けの学力向上を図ることに何の意味があるだろうか。他方、発達障害の子供たちのために入試制度を改善するとか、特色ある高校や大学を作って不利にならないようにしようとかという動きもある。

教科指導を行っている通級指導学級を「専門性」が高いと評価している研究者や保護者がいることも事実である。

長く発達障害児・者にかかわってきた者からみたら、開いた口がふさがらないことがある。学力ってなんだろう？「最後に残る社会性の問題」は、幼少時からの地道な積み上げが重要である。教科の学力は即効で高めることができるが、それまでである。生きていくためには、自己調整、コミュニケーション、社会的行動、そしてそれらを支える適切な自己理解が必須である。集団適応に困難が大きい子供たちにとって、個別のお勉強でこれらが育つんだろうか。高学歴であれば、社会適応能力は高まるのであろうか。世の中はそんなに甘くはない。発達障害というすばらしい個性をその人らしく發揮するために、一生モノのかかわりをするべきだろう。クジラの活動は、まさに、その困難への挑戦と高く評価できる。

---

立川公共職業安定所 専門援助部門  
統括職業指導官 清水 真由美

昭島市就労支援センタークジラ様、設立 10 周年おめでとうございます。ここに記念誌が発行されますことを心からお祝い申し上げます。

日頃より就労支援において同行面接・ケース会議等様々な場面で連携やご協力を頂いており感謝申し上げます。中でも印象深いことの一つとして、多摩地区の合同面接会での出来事をご紹介させて頂きます。多摩地域の合同面接会は、会場の狭さもあり、昨年まで完全予約方式で面接会を開催させて頂いておりました。そのため面接予約の開始日は朝早くからハローワークの前に列を作りお待ち頂いておりました。1月下旬の寒い中、ほっかいろ持参で先頭に並ばれていたのはクジラの支援員の方でした。支援者のために、ニコニコと、“一人でも就職が叶うよう”という温かい思いが伝わってきました。

これまで、多くの障害者の生活・就労両面にわたり、熱意と努力による支援を積み重ね、地域における現在の基盤を築いて来られたことと思います。

クジラ様の益々のご発展と関係者皆様のご多幸を祈念してお祝いの言葉といたします。

---

もう 10 周年なのですね。おめでとうございます。

就活に走り回る大学生、修論がかけなかった大学院生と付き合ってみて、学歴ってなんだろう、学ぶってどういうことと頭を抱えてしましました。学力が高いことと、人として育っていることは正比例しないですよね。人事担当者は、そのあたりをしっかりと見抜いています。

発達障害があるなしにかかわらず、学力や学歴はその人のほんの一部の属性でしかありません。

通常の学級で手のかかる子を固定の学級に押し込め、個別的な教科指導を行って成果があがっているという自治体もあります。お勉強を個別で見るのでしたら、すべての教師にとってもっとも楽なことですが、即効的に学力を上げることなら塾の講師のほうがもっと上手です。

子供たちにとっては、集団で考えたり切磋琢磨したりしながら自分を深めていく、思考力を育んでいくチャンスは奪い取られたままです。通常の学級でお邪魔虫になっている子、なりそうな子を、「専門的な指導の場である、固定の情緒障害学級」にまとめてしまう、これって、まさに差別選別です。こういう扱いをされた子達が大きくなったときに、どんな問題が起こるか、想像しただけでも悲しくなってしまいます。

このごろ、就労を希望しながら果たせない20代から30代の人たちとの付き合いが増えました。高学歴ですし、知的には標準で、いい大学を出ています。自分では一生懸命努力していて知識もあるにもかかわらず常識的な行動が取れない、自分に対する理想が高すぎて到底無理なことに気づかないなど、もったいないなあと思うことがあります。

今、学校教育を受けている人たちが就職を迎えるころには、こういう人たちがわんさと出てくるのではないかでしょうか。そのときになって、あの施策は誤りだったといつても、もう取り返しがつかないです。

行政を当てにすることはできないでしょう。しかも学校現場では、意欲のある教員たち、しっかりと腰をすえてやっている教員たちへの風あたりが強くなってきています。これから先、どうなっていくのでしょうか。

クジラさんの活動には、本当に期待をしています。福祉・労働予算は、政権のいかんにかかわらず、先細りになっていくのではないかと思います。がんばっていただきたいです。これといってお役に立てないと思いますが、気持ちは一緒です。どうかこれからも、よろしくお願ひいたします。

---

### 『設立10周年おめでとうございます』

元昭島市議会議員 友清 節子

この10年の社会状況は、益々厳しさを増し労働の場に於いても正規雇用より非正規雇用が主流とも言える状況になっています。大手企業も大巾な人員削減、9割をパートでというスーパーまで。

一方、行政側からは、自助、共助、公助が声高に、そして、市民力、生活力、仕事力、生きる力と盛んに“力”的大合唱です。

そのような中、クジラの事業の存在は、扉をたたく一人ひとりに、心の扉を大きく開けて、正にバリアフリーで、少しだけ背中を押してあげ、その一歩に寄り添い支援する、ハンディキャップを持った人たちに、どれ程、心強く重要な場になっているか計り知れません。

事業実績も、利用者の増加、受け入れ企業の拡充は目を見張る状況です。「法も少しづつ整備されてきて、以前は企業に就労支援機関が入れなかつた、しかし、福祉と労働行政が連携をとれるようになったことで進めやすくなつた、と同時に厳しさの中での事業運営は否めない、でも、何よりも信頼関係、継続性が大切で基本です」とおっしゃる、東條さん、山崎さんに心から敬意と拍手を送ります。

誰もが生きやすい社会の実現を祈りつつ。

---

社会福祉法人むさし野たんぽぽ会  
自立支援センターたんぽぽ  
施設長 加藤 保

特定非営利活動法人チャレンジドステーションクジラ創立10周年おめでとうございます。  
長い道のり、開拓者としてご苦労が多かったこととお察しいたします。

東條さんを中心として、まだ、障がいのある方々の就労支援が公共職業安定所や特別支援学校（養護学校）の進路指導に携わる方々を中心とし、限られた方による就労支援を、皆さんが課題を提起し、地域で支える障がいのある方への就労支援の「るべき姿」を実践され、発達障がい者の就労支援など数多くの教訓を私たちに示してくださいました。多くのことを皆さんから学びました。

現在、国が強く推し進めている障害者就業・生活支援センターも地域に数多く設置されてきてはいますが、チャレンジドステーションクジラなどが取り組んでこられた障がい者の就労支援の姿が「形」となり、多くの市町村に障がい者就労支援センターが設置され、職場開拓・求職支援・職場定着支援・余暇支援・生活相談など障がいのある方が、地域で働き・地域で暮らし、自己実現を果たすための支援を具体的な形で、役割を担っておられます。

私は、チャレンジドステーションクジラに係わってこられた皆さんと知り合いになり、多くの励ましていただきました。また、みなさんを通し、障がいのある方の就労支援にあたられている方と知り合うことができました。とてもありがとうございます。

今後もご指導よろしくお願いします。

---

『チャレクジのファンです』

独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

事業企画局研究部 部長 志賀利一

特定非営利活動法人チャレンジドステーションクジラのマスコットが一番上に描かれて  
いる「チャレクジ」は、いつも楽しみに読ませていただいている機関誌です。

発達障害のあるお子さんの子育ての延長としての、教育現場や地域社会への啓発、さら  
に大人になってからの就労の問題に地道に取り組み、そして法人化と福祉事業も手がけて  
いるまでに至ったバイタリティーには、敬服するばかりです。そして、毎回、雇用の制度、  
求職活動をしていた人の体験記、障害者雇用や就労支援の現場からの声、先駆的な現場の  
見学レポート等を掲載した、チャレクジの定期発行です。

私もいくつかの機関誌の編集に携わった経験がありますが、広く、当事者や支援（雇用）  
の現場からの声を拾い上げようとする試みを何年も続けることは、決して簡単ではないこ  
とは身にしみております。難しい挑戦を続けて既に24号も刊行されているパワーは羨ま  
しい限りです。10周年おめでとうございます。今後も、ますますのご発展をお祈りいたします。

---

東京都立あきる野学園

進路指導部 榎本 幹子

このたびは、昭島市障害者就労支援センタークジラ様の設立10周年おめでとうござい  
ます。

本校の卒業生たちは、在学中の高等部2年生で貴事業所を見学させていただいた際に、  
就労支援センターの役割について学び、3年生で企業への就労が決ると貴事業所へ登録  
をして、卒業後の支援をいただいています。また卒業後は、本校の教員の追指導（アフター  
ケア）への同行をお願いするなど、卒業生の定着支援を本校とともにに行っていただいてい  
ます。学校から社会へ移行する際に、学校と一緒に手厚い支援をしていただけることに、  
感謝しております。

各地域で就労支援センターがまだ立ち上がってない時期より、地域との関係が薄れて  
いく企業で働いている障害のある方々を支えていただくななど、今日に至るまでスタッフの  
皆様の努力は並大抵のことではなかったと思います。これからも、昭島地域の障害のある  
方々が安心して働くことができるようサポートをしていただけることを願っております。

本校も卒業生を支えるチームの一員として、微力ながら協力していきたいと思います。  
貴事業所の益々のご発展をお祈り申し上げます。

---

元東京都教育委員会心身障害教育指導課長  
元東京都立青鳥特別支援学校長  
岸本 啓吉

チャレンジドステーションクジラの設立 10 周年、本当におめでとうございます。  
思い出してみれば、約 20 年前に、東條由美子センター長にお会いしたのが始まりです。当時、私は都教育委員会の心身障害教育担当副参事で、障害児の教育の施策の充実に努めておりました。特に力を入れていたのが、障害児の個別指導計画の普及と、発達障害児への課題への施策でした。その中で、東條センター長の熱心な要望に心を打たれるものがあり、私たちの方向とも一致し、全面的に協力していくことを考えておりました。その後の東條さんを中心とした努力が実を結んで、素晴らしい進展と組織を作られましたことを、心からうれしく思います。

今後ますますの発展をお祈り申し上げます。また、その後もいろいろお世話になりましたことを感謝申し上げます。

がんばって下さい。チャレンジドステーションクジラのみなさん！

---

日本リハビリテーション専門学校  
原國 優子

昭島市障害者就労支援センタークジラ、設立 10 周年 誠におめでとうございます。

私自身 10 年前には「東京小児療育病院」で作業療法士として働いておりました。現在は作業療法の養成校にて、発達障害分野の作業療法士の後輩を育てる仕事をしております。この 10 年で大きく発達障害の概念は変化し、支援体制の動きも出てきています。それは、何よりも「発達障害者支援法」の成立により行政が動き出した事が由縁ではないかと思います。就労支援センタークジラの設立と歩みは、行政、社会への先駆的な提言になっていたのではないかと感じます。今後も、新たな提言拠点の場として取り組まれる事を望みます。

30 年前、「発達障害」・「広汎性発達障害」・「学習障害」等の概念が日本にない時代に、作業療法士として働き始め、就労支援センタークジラ設立の中核になっていらっしゃる方々のお子さんと出会いました。正直どの様な支援を行ってよいのか、迷いながらの関わりをしていました。お子さんとの関わりは終了しても、保護者の方々の活動を通して多くの事を学ばせて頂きました。障害の有無に関わらず、子育てとは子も親も共に成長していく過程なのだという事、最終的な目標は自立（自律）なのだという事。医療の場で働く者は、社会の中で生きていく彼等の自立（自律）に向ける支援を、検討する必要性があるでしょう。

最近、当事者意識を持つ事は難しい事だと、強く感じます。社会を動かす為には、とても必要な要素と思われます。その為には当事者の方々が語り、その言葉に耳を傾け共感して行く意識の変化が何よりも必要でしょう。その様な声を発信する場として、今後の就労支援センタークジラが発展されていくことを願います。

---

NPO 法人障害者雇用部会

理事長 土師 修司

10周年、おめでとうございます。この間決して順風満帆ではなく苦難の連続であったかとは思いますが、日々の努力の積み重ねが、多大な実績と自信という財産につながっていることに敬意を表したいと思います。常々私は障がい者が社会に出ることにより、本人は成長し社会も変わると信じてきました。そのためには社会で自立できるように育てる。障がいを理解し、長所を生かし労働の担い手として雇用する企業、そして両者を支援する機関の3者が一体となって、目的の共有と役割分担をすることにあると思います。今後の更なるご活躍、ご発展を期待しています。

私の反省を踏まえて事例を紹介させていただきます。

A君はH8年以来約14年間、通所の施設を利用して重度の知的障がい者です。この間何度か企業実習にチャレンジしましたが就労できず、継続支援B型で処遇をしていました。2年前新たに特例子会社の設立があり、他の利用者と一緒に推薦したところ、見事に採用となり、現在は15人の社員の中で5本の指に入る高い評価を得ています。実はこれまでに多くの障害者を送り出していましたが、筆記試験では初めての0点、集団での面接もかみ合わずあきらめていました。何故採用をしたのかと問うと、あなたが推薦したからと言われ、長い間彼を見ていた自分が恥ずかしく思いました。施設での彼は私を見ると、笑っちゃうとか歯を磨いたというのが口癖でした。施設にいる方が本人にとって幸せだと決めつけていましたし、実習の時も大変だったら施設戻ってもと声掛けをしたら以後目をそらすようになった。本人は本当に働きたかったと強く実感しました。私共は障がいを先ず意識しますが、あらためて働くという事は与えられた仕事ができれば良いのであり、その事で彼らを評価する雇用の場の創出こそ我々の役割だと反省をしています。

貴法人のますますの発展を祈念します。

---

『設立 10 周年を記念して』

一般社団法人障害者雇用企業支援協会

畠山 千蔭

企業経営について「企業 10 年」と言われることがあります。それは企業経営の 10 年間には好不況があり、様々な環境変化を乗り越えてきた企業は「まずは合格点」ということのようです。このごろは「失われた 20 年」などとも言われ、長い停滞が続いておりますが、そのような時代においても、障害者の雇用・就労の促進という課題については様々な制度の改正・見直しがありました。「貴センターの 10 年」は、折々の変化に柔軟に対応しつつ多くの障害者を就労の世界に送り出してこられた 10 年であったと思います。

やがて企業の法定雇用率は 2.0% となり、企業の障害者雇用に対する意識も一段と高まつてくるものと思われますが、企業が集中し「売り手市場」になっているような首都圏においては、人材の供給が不十分で「採りたくても採りたい人材がいない」という声も聞かれるようになっております。

障害者が就労の場に移行して自立の道を歩いていくためには、企業が求める「育て甲斐のある人材」を送り出す就労支援機関の役割が一層求められておりますので、次の 10 年へのスタートにあたり、貴センターの一層のご発展を心から期待しております。以上

---

医療法人社団東京愛成会

理事長 長瀬 輝誼

平素より昭島市の障害者就労支援にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。またご設立 10 周年のお慶びを申し上げます。

当医療法人社団東京愛成会は、八王子市に高月病院があり、昭島市に診療所のたかつきクリニック、デイケア専門のたかつき第 2 クリニックがございます。当法人はこの様な体制でございますが、就労支援や就労継続支援において、スタッフの方が同市内であるクリニックへの同行、デイケアとの連携のみならず、通院先が病院の場合は病院まで同行をして下さるという幅広い支援をして頂いております。その様な関わりの中で、当事者の方へ対しての就労支援や就労継続支援が非常に手厚く熱心であると実感しております。

昭島市にある医療機関として、今後も障害者就労支援のご協力をお願い申し上げます。

---

## 『就労支援の 40 年、そしてクジラの 10 年…さらに、次の 10 年へ』

元東京都立あきる野学園校長

臨床発達心理士

池田 敬史

40 年前、養護学校の卒業生がオイルショックによる景気低迷のため、次々と自宅待機になった頃、進路指導担当として、就労支援（そんな言葉もない時代でした）の仕事を任せられました。何ら資源の無い中で、新聞の求人チラシを手がかりに会社訪問を繰り返し、開拓に奔走しました。上野にあった障害者職業センターが唯一つの頼りでした。

学校数も少なく、自閉症がようやく養護学校に受け入れられた頃でした。学生時代の知識として、ハンス・アスペルガーの論文は知っていましたが、まさか、その後、こんなにお付き合いすることになろうとは夢にも思いませんでした。

不安と期待が交差する進路決定でしたが、クリーニング工場に就職した、ダウン症の K さんは、今も勤続年数記録を更新中です。

30 年前、肢体不自由の世界では、重症化が著しく進行し、就労より福祉支援に重点と関心が置かれました。就労可能な生徒であっても、取りあえず、職業訓練校やリハビリテーションセンターに託すといった、モラトリアムな進路指導に疑問を抱えつつ、文部省の調査官と重症者は働くかせずに、18 歳までに各種手当や奨励金を貯蓄し、基金を募って会社を立ち上げ、株式の配当で生きていこう、などのビジョンを熱く語り合いました。

昔も今も脳性まひ者の就労は困難で、日中の排泄介護を必要とする就労は今以て、実現していません。

20 年前、LD 問題が 9 つの親の会（昭島くじらの会もそのひとつ）によるシンポジウムを契機に、保護者、学者、行政が一体となって、ムーブメントを起こしました。

都議会までも味方にして、リーフレットや研修会を実現させました。このムーブメントは後に発達障がい者支援法や通級制度、特別支援教育へと広がりと深まりを見せました。

そして、10 年前、障害者自立支援法に先がけて、いち早く、LD 問題の聖地の一つである昭島に「クジラ」が狼煙を擧げてくれました。LD、発達障がい、個別指導計画も全国に先んじてきた東京にとっては、特別支援教育構想を国に先んじられた事は、痛恨の極みでしたが、「クジラ」による就労支援の先行投資は溜飲を下げさせてくれました。

自閉症と付き合って、はや 40 年になります。そして、今、「アタマはイイのに、とっても生きにくい自閉症」の 0 歳児から高齢者まで、日々かかわる仕事に追われています。

米国はブッシュ政権時代の 2006 年に「自閉症と戦う法案」を立ち上げ、超党派で対策に乗り出しています。自閉症者が立派な米国市民として職に付き、納税者となることを主眼としています。昨年、オバマ政権は 3 年間の延長を決めました。

「くじら」が時代を動かしたように、「クジラ」が次の時代の魁となることを祈念しています。

#### ④昭島市障害者福祉ネットワーク会員様より

---

##### 『Hさんを通して感じること』

NPO 法人在宅福祉サービス ウィズ 理事長 高橋知子

NPO 法人チャレンジドステーションクジラさん、設立 10 周年おめでとうございます。クジラさんを利用している Hさんを通して感じたことを書かせていただきます。Hさんは、ウィズ利用者のご兄弟で私は以前から Hさんの成長の様子を拝見してきました。Hさんは、大学は出たものとの関係を作るのが苦手で就職できず、親御さんも困っていました。私は親御さんから相談されたので、日頃から障害者の就労に関して専門的な支援をしているクジラさんに相談しました。東條さんはすぐに動いてくださり Hさんと面接をし、しばらくして就職先を見つけることが出来、Hさんは自信を取り戻すことができました。東條さんは、Hさんのできること（強み）を活かし、丁寧で分かりやすい説明と的確な情報提供をしてくださり、就職してからは、Hさんはいつでも相談ができるクジラさんがあることで安心して働き続けることができています。又親御さんも働く場が出来てホッとなさっています。

クジラさんのホームページには「一般就労を目指す全ての職業的障害を持つ人に対する就労支援及び生活支援に関する事業を行う」とあります。地域の障害のある方の強い味方として、クジラさんの果たす役割は益々多くなっていくと思います。更なるご活躍をお祈り致しております。

---

##### 『10周年をお祝い致します』

特定非営利活動法人  
自立生活センター・昭島  
吉澤 孝行

昭島市障害就労センタークジラが、10周年を迎えるとの連絡を頂き月日の経つの早いのを、改めて感じております。自立生活センター・昭島は、少し早く発足した団体として共に歩んでこられたことを、幸いだと思っています。

この 10 年で障害者に関する考え方も大きく変わってきました。国連で 2006 年に発効された「障害者の権利条約（日本では批准していません）」は、障害の捉え方をそれまでの医療モデルから社会モデルに改め、障害者の就労は合理的配慮があれば可能だと言うことを方向付けています。

〈昭島市福祉団体様〉

また10年前に比べて発達障害についても認知されて来ましたが、昭島市障害就労センタークジラは、早くから取り組まれており当団体も多くを学ばせて頂いております。

就労は生活の中の一部であり、就労が生活のリズムの一つの柱と理解する事は、障害者が地域で暮らしていく為に大事な事だと考えます。その実現に向けて、昭島市障害就労センタークジラと協力して当団体も活動をして行きたいと思っていますので、これからも宜しくお願ひします。

---

### 『創立10周年を迎えて』

社会福祉法人 昭島市社会福祉協議会

事務局長 日下 直喜

創立10周年を迎えて心からお祝い申し上げます。この事業をクジラが受託された頃は、まだ障害者就労支援事業を実施している所は少なく、都内で12番目、多摩地域では4番目と伺っています。先駆的な取り組み上のご苦労は大変なものだったことでしょう。その運営を支えたのは、当事者の方やご家族の方々と一緒に以前から取り組まれてきた『チャレンジドステーションクジラ』での経験であり、素晴らしい人材、そして地域の様々な機関とのネットワークではなかったかと存じます。

障害のある、なしに関わらず人にとって就労は、生活の糧を得ること、自分らしさを表現すること、素晴らしい仲間を得ること、新たな学びを得ることなどいろいろな意味で人の生活を支えています。それぞれ異なる障害を持つ方への就労支援は、一つひとつ共に積み上げる支援だと思います。この10年の取組みを基に、新たな10年に向けてスタートしていただきたいと思います。

また就労と併せ地域での生活の支援もまた大切なことです。だれでも生きがいをもって、地域でいきいきと安心して生活ができるよう、これからも就労支援センター、社協、その他地域の様々な機関が連携を密にとり昭島をもっといいまちにしていきましょう。

---

昭島市身体障害者福祉協会

会長 深井 隆

チャレンジドステーションクジラが創立10周年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。今年は、ロンドンパラリンピックが開催された記念すべき年でもあります。この10年障害者の就労に尽力され精力的に活動を広げられましたこと誠にすばらしいことと存じます。私も夜の会合などでお会いしているときも利用されている方からの相談を

受けているのを目の当たりにしたことがあります。終了後、そこに行って話し合うとのことを聞き大変な仕事をされていると思いました。障害者の未来は決して明るいとは言えません。いろいろな問題を抱えていますが、これまで活動を推進してこられた東條理事長様をはじめ、役員の皆様、会員、関係者の皆様の結束力の強さをこれからも發揮され、益々の発展とご活躍をご祈念申し上げます。

---

『お祝いの言葉』

社会福祉法人きょうされん  
リサイクル洗びんセンター  
センター長 川村 民枝

昭島市障害者就労支援センタークジラ様の設立10周年を心からお祝い申し上げます。リサイクル洗びんセンターがこの昭島市で事業を開始をした時期とLD児・者を考える会「くじら」を設立された時期は丁度同じ時期になります。

昭島市内の活動を振り返りますと、発達障害の理解と支援の輪を広げる取り組みに、力を注がれてこられました。その活動を通して、市内の福祉団体の連携も強まり、今日障害者の就労を支える昭島市内の中心的な団体として大きく発展してこられました。

当施設においても2007年10月に就労移行支援事業を開始し、クジラ様の支援を受け就職に結びついた方も今も元気に仕事を継続されております。

障害者の自立に向けて、企業との架け橋となり、今後も益々のご活躍を期待しております。今後共、福祉の向上に向けて協力・連携をし、昭島市内のネットワークとして結びつきを大切にさせていただきたいと思います。

---

特定非営利活動法人太陽と風

理事 酒井 幸子

設立10周年を迎えたことを、当法人を代表し、心からお祝い申し上げます。

先日お送りいただいた「チャレクジ」通信No.25を拝読し、この10年間の障害者への就労支援の活動が、着実に実績として積み上げられているご様子が手に取るように分かり、関係機関のひとりとして心強い想いです。

特に、事業者の方の寄稿文の中で、「くじら」さんの存在が「心の力」となっているという文章が目に留まりました。個性が異なる利用者と、雇用事情が違う事業者の間に立ち支援を継続させていく努力の大変さは、私の想像を超えるものがありますが、実はその過程は、関係者の人間成長をも伴う支援なのだということが読み取れて、「クジラ」さんの存在のすごさに改めて感動致しました。

働きたいという夢や希望は尊いものです。これからも、障害のある方たちの想いを受け止めて末永く支援をしていただぐとともに、障害者をとりまく環境改善のために行政等への働きかけをよろしくお願ひ致します。

---

NPO法人ふらっと

事務局長 高橋由美

10周年おめでとうございます。

チャレンジドステーション・クジラさんの10周年記念誌の寄稿に際して、昭島市での福祉関係団体のネットワークの広がりに関しての歴史を少し振り返らせて頂きます。

一口で10年と言ってもその間いろいろあったでしょう。そもそも事業を立ち上げる際のご努力も大変だったかと思います。市内の福祉関係団体と公民館に集まって回を重ねて調整されたことを思い出します。それまで昭島市内では福祉関係団体のネットワーク化があまり進んでいませんでした。20年以上前になりますが、唯一、ゆいのもり社がつつじヶ丘団地の一角を借りて「みんなのバザー」を年1回開催していました。それを他の福祉団体・市民団体にも声を掛け、市民と福祉の関係をを広げてくださいました。そして、バザーを通して横のつながりが広がっていったのです。また、私たちのNPO法人ふらっとを立ち上げるきっかけにもなった「みんなで楽しむ福祉コンサート」(通称:わくわくコンサート)の実施でも市民のつながりが広がりました。今年で15回を迎えたわくわくコンサートですが、第6回までは市民会館大ホールで実施しており、その時にエントランスやロビーで福祉団体の模擬店を出していただき、そこでも横のつながりを作っていました。とりわけその6回目には「市民が望む総合福祉センターをつくろう会」立ち上げの動きを始めました。昭島市が市役所の跡地に総合的な福祉の建物を建てようという動きがあったからです。その「市民が望む総合福祉センターをつくろう会」では、他市のセンター調査も行い、建物のハード面、事業内容など検討を重ね、建物をつくる前から運営協議会を立ち上げてもらうよう市にも働きかけました。そのような運動を繰り広げ、障害者支援のなかで就労部分は重要課題であるとして、チャレンジドステーション・クジラの東條さんを始めスタッフの方々が尽力、発足されたという経緯があります。この動きのもう一つの産物として、今の「昭島市障害者(児)福祉ネットワーク」の活動に繋がっています。

この10年を継続されてきたことに敬意を表し、今後は昭島市にとって、就労支援、雇用支援を一体化した崇高な構想が必要ではないでしょうか。さいわい昭島市には東京都から移管された勤労センターの中に商工会という雇用につながる組織も入っています。これから10年、昭島市の障害のある方のみならず就労・雇用支援のリード役の一旦を担って頂きたいと期待するものです。

---

社会福祉法人きょうされん 虹のセンター25  
センター長 渡辺おりえ

設立10周年おめでとうございます。

クジラさん（と、いつも呼ばせていただいている）は、企業と就労を希望する障害のある方との橋渡しとしてなくてはならない存在です。クジラさんの支援を受け、数多くの障害のある方が一般就労し、自分の望む生活をしています。

虹のセンター25は日常生活の相談支援をしており、相談者から一般就労の希望が出てきたら、クジラさんへ一緒につなぎすることができます。クジラさんへ行くと、就労する準備が整っているか等、一般就労を目指すために必要な様々な点を、就労支援のプロの目で告げられます。利用者はこの初回面接で就労に向けての態度が本気になります。

クジラさんが日々対応するのは、企業さんであったり、就労を切望する障害のある方であるので、スタッフの方々の緊張感は並大抵ではないと思います。緊張感のある現場ながらも、本人を励まし安心感を与え、企業さんからも信頼を寄せられているクジラさんの力にいつも敬服しています。

これからも、地域で暮らす障害のある方々の生活を支える地域の仲間として、どうぞよろしくお願いします。

---

社会福祉法人あすはの会 みしょう／障害者就労プラザあいあい

設立10周年おめでとうございます。

私どもあすはの会は、平成22年より就労支援事業を開始し、手探りでの事業活動の中、就労支援センタークジラさんの位置づけを知り、門戸をたたきました。クジラさんからは、就職に結びつかなかった方や就労に向けての準備がまだ必要な方を紹介していただきました。その方々も1年または2年が過ぎ、少しずつたくましくなってきています。彼らが、再度、就職を目指す時、お世話になる事と思います。これからも障害者就労にご尽力ください。

---

NPO法人ふやんあしなが福祉会

理事長 野村 三郎

設立 10 周年 誠に、おめでとう御座います。

思えば、東京都の中でも、先駆的に、「就労支援」を行おうとする、東條ご夫妻様の、ご活躍、ご苦労は並々ならない、ご努力だったと思います。

その後の、スタッフ皆さまの活動も「あっぱれ！」な、業績を上げられ、東京の中でも、モデル的な存在であることを、昭島の住民として、誇りに思う次第です。

今後の 10 年も今まで以上にご苦労な事でしょう、が、利用者様の為に、

「夢」と「希望」のある世づくりのため、ご尽力頂きたくお願ひ申し上げます。

私共も、クジラ様から、お声が掛かれば、協力を惜しみませんでしたので、どのような事でも、利用して下さいませ。

まずは、私共の利用者一同と共に、クジラ様の 10 周年のお祝いと、お世話になっております数々の事に感謝と、お礼を申し上げます。

---

社会福祉法人ゆいのもり福祉協会事務局長

浅川 勤

昭島市障害者就労支援センタークジラの設立 10 周年、おめでとうございます。

この 10 年の間に精神保健福祉の分野では自立支援法が施行され、ゆいのもり福祉協会も 2010 年度から 3 施設で就労移行支援を行うようになりました（現在は食工房ゆいのもり、ゆいのもり田中町の 2 施設で実施）。

昭島市障害者就労支援センタークジラさんには、就労希望のメンバーが大変お世話になりました。また 2011 年度は、就労移行支援の利用者のための就労プログラムにて「就労支援機関を利用する時」をテーマに、豊富な支援の体験に基づいた貴重なお話をうかがいました。

障害者の就労はしだいに社会に受け入れられつつあります。しかしながら、障害をもつた方が仕事に就くこと、さらには職場に定着して永く働き続けるためには、多くの支援を必要とします。昭島市障害者就労支援センタークジラさんには、今後も障害者の就労支援のリーダーとして、ご支援をよろしくお願ひいたします。活動のさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。

---



特定非営利活動法人

# チャレンジドステーションクジラ



こんご、おねがいしたいこと。

かにきめつてくださん  
アーランタいたぶ  
けくたいた  
けくせくよいた  
アリたけうためつさひす

クジラとのおもいで。

ハーバーガーフ

西原一



クジラとのおもいで。

夢と希望を与えてくれて有難う。

こんご、おねがいしたいこと。

岩林 清

いつも永く存在して下さい

こんご、おねがいしたいこと。

色々な苦労を経て歳になってきました  
振り返ってみると、かと仕事場を小やりもりたくなりました。  
これからはわか仲間は、これからもスト生活で何事も叶う物です。  
でも現在の私たちには、何が

三角まつ子



おいわいの、メッセージ！

十周年おひわいとしてありがとうございます

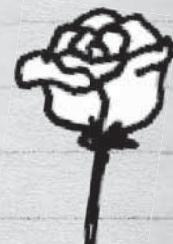
クジラとのおもいで。

東條さんの面接ですごくきんちゅうした事を  
今も思い出します。いろんな人と接する事で自分にあた仕事を  
見つけられると思つた。自分と子供のために働いていくにゅうを  
えたいと思いました。

こんご、おねがいしたいこと。

今はアスランで働いています。これからはネット会に出で  
働きたいです

木戸奈央子



クジラとのおもいで。

セカリッパ周生よめじらニサハカホ

雨宮博

こんご、おねがいしたいこと。

ユムニともよろしくおねがいします

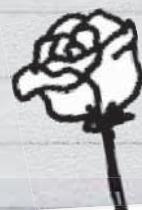
クジラとのおもいで。

クリスマスとかさくらまつり

吉野文雄

こんご、おねがいしたいこと。

これからもよろしくおねがいします



こんご、おねがいしたいこと。

高橋ゆづり

10年あめとうござります。



クジラとのおもいで。

東條さんとめんせつできて良かった。

~~今日~~(株)日清食品 今後がんばっていきます。  
もう1年たちました。

私の仕事ぶりをみに来て下さい。

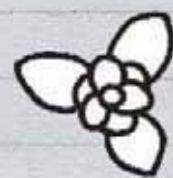
こんごとも仲良くおねがいします。

きゅうりようもふいました。

仕事ふえました。

こんごともよろしくお願ひします。

清水百合子



クジラとのおもいで。

またの日に仕事をおやわしていただきありがとうございました。

こんご、おねがいしたいこと。

荒川元博

いつかまた仕事をみつけてください  
よろしくお願ひします。

特定非営利活動法人

# チャレンジドステーションクジラ



松井洋輔

クジラとのおもいで。

こんご、おねがいしたいこと。

こんご、おねがいしたいこと。

おはみしておしいなとれたしには  
かもいました。

竹内明美



クジラとのおもいで。

いつも、お手紙、はがき ありがとうございます。  
レクレーションに なかなか、顔出せなくて すみません。

こんご、おねがいしたいこと。



白井 梅

自立をしたいので、おうじの仕事かけていいので。  
もし、あきかありましたら、しょうかにして下さい。

設立10年 おめでとうございます。  
また、お世話をになります。



こんご、おねがいしたいこと。

よろしくおねがいします。

小林由香

川上朱実

こんご、おねがいしたいこと。

設立10年 あめでとうございます。

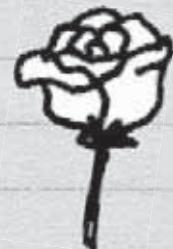
クジラとのおもいで。

こどものよろしくな  
とよなみけまですが

こんご、おねがいしたいこと。

たかうみまか  
あいたひです。

五日がまう



クジラとのおもいで。

10年あめでとうござります。  
これからもがんばって下さい。

こんご、おねがいしたいこと。

松井 法子

私は、いま日清医療食品のお仕事をしています。  
これからも、このお仕事を大事にしてつづけて行きます。

おいわいの、メッセージ！

いつもお世話様になります。

クジラとのおもいで。

10周年記念  
お祝い申します。

こんご、おねがいしたいこと。

今後とも宜しくお願いして  
ご支援よろしく  
お願ひ致します

和田 竜次文男

このコーナーの題字、イラストはくうさんが描いてくださいました。

## ⑤多摩地域障害者就労支援事業実施団体様

### 『設立 10 周年によせて』

社会福祉法人 友愛学園

青梅市障害者就労支援センター 所長 榎戸俊行

設立 10 周年、誠におめでとうございます。

三多摩地区で、先駆的に就労支援事業を展開され、後進の事業所に障がい者への就労支援の道を切り開いていただきました。今でこそ、各市に就労支援機関が整備され、障害者雇用を促進する施策が次々と打ち出されていますが、10 年前の障害者雇用を鑑みますと、苦難の連続ではなかったかと思います。この間のご苦労に対し深く敬意を表しますと共に、貴事業所の益々のご発展をお祈りし、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

東久留米市障害者就労支援室 さいわい 職員一同

この度は、設立 10 周年を迎えること大変おめでとうございます。

今でこそ障害者の就労支援は一般に周知されつつありますが、10 年前は、まだまだこれからという時代の中で先駆的にやられ、障害者雇用の促進等に大変ご尽力されてきたと思います。

障害者雇用への思いや今まで培われてきた経験等は、後進組の私どもには大変参考になり勇気づけられることがいくつもありました。

私ども支援室は今年の 9 月で 3 年目を迎えました。まだまだ昭島市さんの足元にも及びませんが、先輩方の背中を見ながらいつかは追いつけるように日々精進してまいりたいと思います。

今後ともご教示いただけますようどうぞよろしくお願ひいたします。

改めて設立 10 周年、おめでとうございます。

東久留米市障害者就労支援室 あおぞら

室長 鈴木 浩司

日頃大変お世話になっております。設立 10 周年、誠におめでとうございます。

開設してまだ二年を過ぎた程度の当支援室からすると、10 年という月日がどれほど多くの利用者さんとともに様々な支援経過があり、様々な局面を経られたかと思い敬服するばかりです。

当支援室が開設当時から「チャレクジ」を送付していただき、定期的に活動状況をお知らせいただくとともに、その時々のトピックスなど貴重な情報源とさせていただいております。

以前当支援室の登録者が貴事業所の委託訓練でお世話になったことがありまして、その際には訓練状況をご連絡いただき、その後の支援の大きな支援の参考とさせていただくことができました。就労支援事業のみならず委託訓練をされているというのもそのトータルな支援の幅を感じたものでした。

またその時はいただいた電話であったに問わらず「相談者のパソコン技術を評価するにはどのように…」などと相談させていただき、丁寧にアドバイスいただいたのを覚えております。

よろづながら当支援室も貴事業所の様なトータルな支援を目指したいと思っております。

今後なお一層の御躍進を遂げられますよう祈念いたします。

---

羽村市障害者就労支援センター エール  
センター長 江原 靖典

設立10周年、おめでとうございます。

チャレンジドステーション クジラの皆様には、当センターエールの開設準備の時からお世話になっております。私たちが、初めてお訪ねした時には“クジラ”的場所が見つかりず、迎えに出てきて頂きました。その頃はまだ就労支援事業についてのイメージも漠然としていた私たちに、事業への取り組み方をはじめ、記録や報告等の事務的なご助言も頂き、大変有益で大いに助かりました。また、事務所の物品等についてもアドバイスを頂き、現在、当センターの中心を占めている事務机は、そのときおすすめ頂いたタイプのものです。

“クジラ”は、障害者就労支援事業を先駆けて展開されてきた多くの実践から、また特に発達障害の方への支援等についても、有益な助言や情報を発信し続けてくれる心強い先輩センターです。今後も、利用者の方々やご家族、地域の皆様、事業所の皆様、関係者様など、多くの方々に頼りにされ愛され続けるセンターだと思います。

貴センターのますますのご発展とこの10年を支えてこられたスタッフの皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

---

（多摩就労支援団体様）

### 『昭島市障害者就労支援センタークジラ 開所 10 年に向けて』

小金井市障害者就労支援センター エンジョイワーク こころ  
ボーバル 聰美

何よりもまず、10 周年おめでとう御座います。嘗々と事業をご継続、発展させてこられた皆様に敬意を捧げたいと思います。前勤務先の職員時代に、「チャレンジステーションクジラ」を訪問し、障害者就労支援センターの職務についてお尋ねしたことがございました。白状しますと、早期退職をされた方が、相談業務に応募されたいということでしたので、求人を出されていた、「チャレンジステーションクジラ」での実務や必要な能力や資格について確認することが一つの目的だったのです。

実際に伺ってみると、適切な支援のできる環境や実務、障害の種別問わず生涯を通した支援をされるということにとても驚き、地域に根差した活動や取組みのための組織づくりを、丁寧に自然に行っていらっしゃることに感慨を覚えました。

同事業という現職に就いた今でも、気付いた時には、自分自身を見つめ直したり、襟を正してくれる思い出となっています。どうぞ益々のご活躍をお祈り申し上げます。

---

### 『昭島市障害者就労支援センタークジラ 10 周年によせて』

三鷹市障がい者就労支援センター かけはし 職員一同

設立 10 周年おめでとうございます。心からお喜びを申し上げます。

私ども三鷹市障がい者就労支援センターかけはしはようやく 6 年目になりました。昭島市障害者就労支援センタークジラの職員の皆様は大先輩ですので、多摩地域の就労支援センターの連絡会でのお話や、お送りいただいている会報を通して、いろいろなことを吸収させていただきました。なかでも、就労支援を開始する前のアセスメントが大切であること、連携する関係機関とのやり取りを大事にすること、働くこと以外に余暇支援も重要なことなどを、今のかけはしの支援に活用させていただいている。また、面接会や職場訪問でお見かけしたときには、支援センター職員としての振舞い方を参考にさせていただいたこともあります。

これからも先を走る先輩であるクジラ様を見ながら、私たちも走っていきたいと思います。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

## 国分寺市障害者就労支援センター

昭島市障害者就労支援センタークジラ様が、設立10周年を迎え、心よりお祝い申し上げます。貴センターが、多摩地区の障害者就労支援センターの先駆者としてご活躍され、多摩地区の障害者就労支援の発展に大きく貢献されましたこと、心より敬服しております。

平成19年に設立した国分寺市障害者就労支援センターは、多摩地域障害者就労支援事業連絡会などで、貴センターから経験や実績のお話を伺いする中、多くの学びを頂戴したこと、感謝しています。今後も、先駆者としてご指導いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

これからも貴センターの益々のご活躍、ご発展を心よりお祈り申し上げます。

---

## 『昭島市障害者就労支援センタークジラ設立10周年に寄せて』

西東京市障害者就労支援センター 一歩  
センター長 橋爪 亮乃

この度は貴施設設立10周年おめでとうございます。そして、スタッフおよび関係者の方々におかれましては、障害者雇用および就労支援の発展と活躍に大変ご尽力されたこと思います。大変ご苦労様でした。

昭島市障害者就労支援センタークジラ（以下「クジラ」）が開設した翌年、西東京市障害者就労支援センター一歩（以下「一歩」）も開設いたしました。「クジラ」のスタッフの皆様には、開設当初はもちろんのこと、わたくしが入職したばかりの頃も大変お世話になりました。恥ずかしいお話ですが、わたくしが入職した当初、一歩の職員は入れ替わりが激しく、業務の引き継ぎが満足に行われないまま、支援を行わなくてはならない状況でした。そのような状況で手を差し伸べて頂いたのが「クジラ」のスタッフの皆様でした。他市の状況であるにもかかわらず、親身にアドバイスを頂いたこと今でも思い出します。おかげさまで「一歩」の職員体制も落ち着き、未熟ながらも安定した支援が提供できるまでになりました。本当にありがとうございました。

障害者就労支援センター「クジラ」そして皆様方のますますのご活躍とご発展にご期待申し上げております。そしてこれからも仕事のみならずさまざまな場面でお付き合いさせて頂く様よろしくお願い申し上げます。

---

小平市障害者就労支援センター ほっと  
センター長 山村 彰

この度は設立 10 周年おめでとうございます。

就労支援センターがスタートして 10 年との事で、スタート当初と今では障害者就労の状況が変わって行ったなか、様々なご苦労があったのではないでしょうか。小平のセンターはまだクジラさんの半分の 5 年たったところです。

小平のセンターが始まる際にはいろいろご助言をいただきました。相談からはじまり、具体的な支援についてお聞きしました。

まったく就労支援について小平ではわからない中、支援センターの先陣としてやってこられた先輩がいたことはとても安心感がありました。多摩地域の支援センター間の連携を作っていただいていたことも、私達センターのとても大きな支えです。

今後も、いろいろ教えて頂く事ばかりだと思います。クジラさんが多摩地域の就労支援を引き続き引っ張っていただけますようお願いいたします。

---

NPO法人 自立生活センター・立川  
就労支援部門責任者 井上 貴央

設立 10 周年、おめでとうございます。

平成 13 年に東京都が各区市自治体単位で就労支援センターを設置する事業を開始し、いち早く昭島市並びに貴団体がこの事業に着手されましたことは、働くことを願う地域の障害のある方々にとって、大きな希望と喜びをもたらしたものと確信致します。

つい 10 年程前（自立支援法以前）、当時「福祉サービス」において障害者の就労或いは雇用の支援を行う例が殆どなく、立川でも事業を開始し、暗中模索のなか多くの失敗を重ね、苦労しながら経験とノウハウを少しずつ蓄えていったことを懐かしく思います。その頃、就労支援センターは都内に数ヶ所しかありませんでしたが、現在では全区市に設置され、多摩地域では実に 30 カ所を数えるほどになりました。この間、地域の就労支援をめぐる状況は大幅に変化しました。

昭島市と立川市は隣接していることもあります、常にクジラさんと共に歩んできたという思いがあります。今後社会や雇用情勢の様々な変化が予想されますが、これからも同じ多摩地域の就労支援センターとして、連携協力しつつ共に進んでいけたら幸いに存じます。

今後一層のご活躍を心より願っております。  
引き続き、よろしくお願ひ致します。

---

## ⑥NPO 法人チャレンジド ステーション クジラ関係者より

NPO 法人チャレンジド ステーション クジラ

副理事長 長谷川 京子

ご無沙汰しております。クジラでジョブコーチとして、担当させていた方たちが今も自分の目標に向かって充実した日々を過ごしていらっしゃる事と思います。

私が、作業所に勤務させていただいている当時、東條さんから障害者の就労支援という新しい分野に挑戦すると聞いたときの「スカッ！」とした気分は忘れられません。通所施設といわれる作業所では、就職ははるか遠いものでした。授産施設の設置目的「自活」とは、どういうことなのか、疑問だらけだったように思います。支援計画を作業所が取り組み、それぞれ個々にあったサービス提供をするといったことも皆様の力で、始めたころだったと思います。

あれから、10年がたったのですね。チャレンジド・ステーション・クジラと関わらせていただいたことは、私にとって大きな転機となりました。いまは、特例子会社で企画や採用を担当させていただいております。10年前クジラの設立の折、お世話になった方々にいまも教えを乞うております。

これからさらに社員として成果や成長が問われるものと思っております。より多くの障害をお持ちの方へ、よりよい職場の提供ができますよう、努力を重ねてまいります。

また、大変微力ながら、「就労を通じて、自分の生活を自分らしいものにしよう」としている皆さんを法人の一員として支えられたらとも思っております。

〈ことのはじまりは、LD児・者を考える会「くじら」との出会いだった〉

NPO 法人 チャレンジドステーションクジラ 監事

さいたま障害者労働センター施設長

菅井 眞

『『障害者就労支援センター』設立準備についての検討会（第1回）』が昭島市公民館・第1和室で開催されたのは、2001年8月24日（金）の夜で、その席に私は、東京都の施策「区市町村障害者就労援助モデル事業」の報告者として参加した。

きょうされん（旧「共同作業所全国連絡会」）が、リサイクル洗びんセンターを昭島の中神工業団地に開設した1994年4月。栃木で作業所づくり運動をしてきた私は、初代所長として、単身赴任の身、右も左も分からぬ昭島で仕事を始めることになった。

そして、やはり同年2月に結成されていた「LD児・者を考える会『くじら』」の東條会長（当時）から、障害者福祉動向の勉強会のお誘いを受けた。「学習障害」については、上野一彦氏等の文献で多少の知識は得ていたものの、実際の支援経験は皆無で、『くじら』の活動に学ぶことは少なくなく、関係者との交流はありがたかった。

1999年東京都が地域で障害者の「就労促進」をはかる仕組みをつくろうと、「障害者就労システム検討会」を設置し、私もその委員に委嘱された。作業所を運営している組織や地域で障害者の支援をしている関係団体もその事業に参加でき、人件費も出る補助事業こそが大切と考え検討会に参画してきただけに、地元昭島で、本事業を開始出来ることになったことは本当に嬉しかった。そして、就労支援でも何かと困難が多い発達障害分野で、開拓的取組みがすすめられることへの期待もふくらんだ。もちろん、そのためにも家賃程度の応援は、基礎自治体にもお願いしたいと監査のたびに思うのである。

---

一般社団法人 障害者雇用企業支援協会 加納 正

クジラ十周年、おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げますとともに、この十年間、「障害者雇用の促進と安定」のため、奮闘された法人理事長をはじめとした役員、スタッフ、利用者とご家族のみなさんに敬意を表します。

クジラの接点を申し上げますと、今、還暦を超え、私的な回想になり恐縮ですが、「障害者問題」と関わり30数年になります。三十代では、「障害者雇用の促進と安定」のためには、障害者、障害者団体への支援が肝要と思い、国際障害者年の頃は、多くの障害者（身体障害者が主の時代でしたが、脳性マヒや視覚障害者の就職は困難でしたが…）の働く場を拡大することが、自分の仕事と思っていました。

四十代では、障害者雇用の受け入れる側（企業）に障害者雇用を理解していただき、そのノウハウ（職域拡大や障害者の雇用管理）を提供し、支援することが、「障害者雇用の促進と安定」のためになると確信して当時、全国でも、「福祉」の人たちが就労支援をする先駆的モデル（現在の東京の区市町村事業のモデルでもあります）となつた「神奈川小児医療・療育センター」の仲間とともに、神奈川で「障害者雇用システム研究会」を創設しました。

「障害者雇用システム研究会」は、企業の方もメンバーとして、月1回の勉強会をはじめ、「特例子会社を創ろう」の初版を創ったり、施設、企業の見学会等の実践を通じて、いろいろなネットワークを構築することとなりました。

その後は、東京多摩地域で、足立、荒川、墨田等の城東地域で、渋谷、品川を中心に城南地域で、企業だけの勉強会を創設、現在も整理統合（多摩地域障害者雇用企業連絡会、東京都区部障害者雇用企業連絡会として）継続されており「一般社団法人 障害者雇用企業支援協会」設立の基になっています。

五十代になって、障害者への支援、企業への支援から「障害者雇用を支援する人」への支援が「障害者雇用の促進と安定」のため不可欠と感じている時に、東條さんから相談があり、昭島の「銀座コーニングコーナー」で最初にお会いしたのが、昨日の様です。（コーヒー代は割り勘だった記憶が…当時は「清く正しく貧しく」が現役小端役人の生き方と思っていたのと、コーヒー一杯で仕事をさせられては、たまらないとの思いがあったか、どうか。それからの付き合いとなってしまった……ハあー）

東條さんのお話を伺って、大変失礼ながら、いろいろ勉強はされているが、障害者雇用の法律、制度、システムとノウハウをご存じない（普通は知らないのが当たり前ですが）、これで障害者の就労支援をやれるのかと不安を覚えたのと、ファイトとバイタリティーが溢れ出しており、「障害者雇用を支援する人」に「出会ってしまったんだ、神よ、仏よ」と自分の運命に身を任せることとしました。（そんなア— 大げさなことではないか、大したお手伝いもしないでと、今さら、反省します。）

その時、東條さんに2点お願いをいたしました、一点は、「親の会」がベースで特定の障害、障害者の「障害者雇用、就労支援」でなく、すべての障害者が顧客で、相談支援のできる体制と、「クジラ」が就労支援を実施する時、昭島市内のすべての障害者団体や施設、学校関係機関のみなさんから理解と協力、支援がいただけるようにと。二点目は、そのためには、障害者団体、親の会が「障害者雇用の促進と安定のため」にを勉強し、一定の知識を取得する必要があり、「勉強会」の開催とその中で、区市町村事業の必要性の合意形成をお願いいたしました。

草創期には、いろいろな御苦労があったと思いますが、ファイトとバイタリティーで前進されてきたと推察いたします。私は、法人設立時、出資金が無かったので役員にもなれず、スタッフに請われる事も無く、時々、電話での相談位しかお手伝いできませんでした。

その後、神奈川で「障害者雇用システム研究会」と一緒にやっていた、西村晋二氏がスーパーバイザーで着任され、安心しております。

西村氏とは、30年以上にわたり、公私ともに指導いただいた、私の親方様で、障害者雇用では日本のオピニオンリーダーでしたが、2010年8月逝去され、私にも、クジラにとつても、大きな悲しみと痛手となってしまいました。

最近は、「チャレンジ クジラ」の機関紙に「加納 正の障害者雇用見聞録」なる雑文を掲載させていただいております。障害者雇用の現場や課題を多くの人に、知っていただければと思っています。

十周年を機に、クジラの事業が、理事長、役員、スタッフが力を合わせ、地域のすべての障害者団体や施設等のみなさんから理解と協力、支援をいただきながら、多くの障害者が働き、暮らしていく昭島のため、一層の発展と奮闘を祈念申し上げ、お祝いとさせていただきます。

昭島市障害者就労支援センタークジラ  
コーディネーター 元木 絵美子

この度は10周年記念誌を作成するにあたり、多くの関係機関の皆様にご協力をいたいたことを心より感謝申し上げます。また、支援機関として10年という節目を迎えたこと、職員として携わらせていただいたことを本当に嬉しく思います。

10周年という節目ですが、私自身は設立時からの職員ではなく、途中からこの支援センターの職員として利用者の方や関係機関の皆様と関わらせていただきました。

一般企業から転職した私にとって、福祉の仕事は始めての経験ばかりでした。まさに、体当たりで仕事をしてきたような状況でした。平成18年に自立支援法ができてから、障害者の方を取り巻く環境も大きく変わり、少しずつではありますが、各関係機関が連携をとり、障害者の方が希望を持てる世の中になってきているのではないかと思います。

そのような激動の時代に、障害を抱えて懸命に頑張り、より豊かな人生を送れる姿を見た時は、心から「よかったです」と思わずにはいられません。

最後になりますが、このセンターを立ち上げるためにご尽力くださった皆様、そして、手前味噌で大変恐縮ではございますが、東條センター長、また職員の山崎さんにこのセンターを設立していただき、心からお礼を申し上げます。

皆さまが心豊かな人生を送れるよう、幸の多い人生でありますように心よりお祈りしております。

---

NPO 法人チャレンジドステーションクジラ理事  
障害者就労支援センタークジラ  
コーディネーター 山崎 恵

「ちょっと手伝って貰えますか」当時 LD児・者を考える会くじら の会員だった私にそう声を掛けてくれたのは現センター長でした。

その日、珍しくちょっと高揚している様子で、私にこの事業の説明をしてくださったのですが、きちんと理解も出来ていないのに「はい」と答えたのが始まりでした。

私が、何か出来る人間だったわけではないのに、ただ『役に立ちたい…』そう思いプロジェクトチームに参加し設立準備から携わらせて頂きました。

準備期間、設立当初は無我夢中…1つでも多くの事を自分の知識にしようと、沢山の方のアドバイスやご指導くださった方のお話をたった1つも逃すまいと必死でした。

研修、セミナー等は時間の許す限り出かけました。

大事な事は何か、自分のすべき事は…何ができるか…毎日そんな事を考えながら、ただひたすらに『頑張る』事だけで突き進もうとし、センター長の後を追いかけて続けて来た10年です。

利用者の方と一緒に喜んだ採用通知を貰った日、何度も続く不採用通知に泣いたあの日、利用者の方とこころが通じ合えない…と悩んだ日々。

そんな日々を繰り返し、気が付けば10年。

今は引く事や、良い意味での諦める術も身に付け、すべての経験は有効なものとなって居ります。

10周年という節目を迎えて、この記念誌発行の為に沢山ご寄稿頂きました。

ありがとうございました。

利用者の方、ご家族の方から、心のこもった感謝の言葉をたくさん頂戴し、この言葉に値するだけの事が出来ているのだろうか…と自分に問いかけながらも、明日も明後日も、これからもずっと頑張れるエネルギーを頂きました。

まだまだ力不足ですが、これからも努力してまいりますので、宜しくお願い致します。

---

おわりに

昭島市障害者就労支援センタークジラ 10 周年記念誌作成に向けて、関係者各位への寄稿をお願いしたところ、当センター利用者、ご家族をはじめ、関係企業、機関などにお祝い、ご支援のお言葉を数多く頂きましたこと、深く感謝申しあげます。

改めてご寄稿いただいた文面を読み返し、これまでの当センターの活動が一歩一歩定着し、地域の利用者、ご家族と共に、多くの企業や関係機関の皆様のご理解とご指導の下に活動できた事に感謝いたします。

10周年を迎える、これからも当センターへの励ましと激励のお言葉を受け止め、利用者・そのご家族と共に活動を進めて行きたいと思います。

今後とも各企業の皆様、関係機関におかれましてはご指導、ご支援のほどお願い申しあげます。

尚、皆様から頂戴致しました原稿は当センターに到着した順に掲載させて頂きましことをご了承ください。

特定非営利活動法人  
チャレンジドステーションクジラ  
理事 原 俊雄